

# 平成 29 年度事業報告書

社会福祉法人江原恵明会 法人本部

## 概要

社会福祉制度改革により、経営組織のガバナンスの強化、財務規律の強化をはじめ地域における公益的な取組の実施の責務など、公益性・非営利性を確保する観点から、社会への説明責任、地域社会に貢献する社会福祉法人の在り方の徹底が求められることとなりました。

当会としては、改革前より自主監査の実施や情報公開はもちろん、施設のサービスの継続的向上をベースにした上で、児童、障害者、高齢者と福祉全般を一体的に経営している法人のスケールメリットと連携により経営資源の効率的な配分により、地域における公益的な取組を図ってきたものであり、そうした取り組みと姿勢に制度改革の方向性が一致してきたものとなりました。

施設整備においては、津山市の受託運営による久米こども園敷地内に同じく受託運営による久米児童クラブを職員・児童・保護者の密な連携を図りながら円滑な運営を開始いたしました。また赤磐地区においては、ケアハウスローズガーデン特定施設の平成 30 年度開設を目指し赤磐市と準備を進めてまいりました。また開設から 10 年が経過したパインスクエアの大規模修繕として外壁タイル工事を行い快適な空間を維持していくなど高齢者福祉の充実にも努めてまいりました。

## 1. 29 年度重点事項

「質の高い福祉サービス」、「雇用の安定・人材育成」、「財務の安定」を重点事項として継続して取り組んだ。

### 質の高いサービス

提供するサービスの質を確保・向上させる取組を、下記のとおり継続した。

- 一．利用者満足度の把握、施設・サービス内容に関する情報提供の徹底
- 一．サービス評価の実施、評価結果に基づくサービスの業務改善
- 一．職員教育、施設内外研修による人材育成、資質の向上
- 一．栄養委員会等施設間意見交換による問題点の解消・改善
- 一．第三者委員への要望・苦情等の意見傾聴、報告

### 雇用の安定・人材育成

新規事業開始にあたっては幅広い雇用を図ったほか、法人全体の年齢構成を勘案して新規卒業生の積極的な雇用を行うとともに、世代・職種・役

職に合った研修を実施し、職員のモチベーションの向上を図った。

- 一．各部門の組織目標の明確化、共有化
- 一．キャリアパス要件の見直（昇進、昇給基準の明確化、および資格制度）
- 一．管理職への登用について女性、若手職員を中心に行う
- 一．正規職員登用試験の継続実施
- 一．ハローワーク、ホームページ等を機能的に活用し雇用を図った。

## 財務の安定

長期的に安定した施設経営を行うための財務基盤の確立を目指し、コストを考慮してヒト、モノ、カネといった経営資源を最大限効果的に活用したサービス提供を継続した。

- 一．法人本部を中心とした事務処理統一化
- 一．事業所毎に応じた運営方針の策定
- 一．施設の実態にあわせた効率的な雇用形態及び配置管理
- 一．稟議書等で協議された上での物品購入等の経費管理
- 一．業務委託契約の単年度ごとの見直しの継続
- 一．収支改善に向けた長期運営資金の借入運用、短期借入金の返済

## **2．運営状況の報告・改善**

栄養士、相談員等の職能単位での施設を超えた連絡会を開催し、施設間の連携の強化を図った。

## **3．経営方針プランの策定**

次の役割分担により、経営方針の具体的なプランを策定するなど、法人の強固な経営基盤の確立を推進した。

- (1) 理事長を中心に事務長、施設長でトップマネジメント機能を構成した。
- (2) 法人本部を中心に財務状況の改善や新規事業の計画・実行に向け、各施設長が協力して推進した。
- (3) 管理職クラスの連絡会議により現場の状況について情報交換を行い、経営の効率化、利用者へのサービスの質を高めた。

### **一．経営報告**

- (1) パインスクエアの外壁改修工事の完成
- (2) 津山市からの運営委託による久米児童クラブの運営の開始
- (3) 事業拡大に伴う雇用の確保

### **二．法人本部運営・目標**

- (1) 定例理事会・評議員会を開催した。(3, 5, 6月)

- (2) 各福祉サービス部門で規程・マニュアル等の整備・周知徹底を図ること  
で、適正な施設運営に努めた
- (3) 行政や医療、福祉等の関係機関との連携強化を図り、円滑な法人及び施  
設の運営に努めた。
- (4) 公認会計士との顧問契約を継続し、法人の財務健全性の強化を図った。
- (5) 建築士との顧問契約を継続し、施設設備の管理を徹底した。
- (6) 弁護士との顧問契約を継続し、危機管理体制の強化を図った。
- (7) 各種研修については、外部研修への参加を奨励し、また計画的な施設内  
研修を実施することで、職員の研鑽の機会と内容の充実を図った。
- (8) 永年勤続表彰などの継続実施により、福利厚生の実施を図った。
- (9) 法人ホームページの内容整備や、関係機関のホームページに現況報告や  
決算財務諸表を掲載するなどし、広報活動の充実と情報開示に努めた。
- (10) サービス管理責任者、社会福祉主事等の資格取得について計画的に受講  
させ人材育成に努めた。
- (11) 社会福祉制度改正に即し、役員、評議員体制の見直しをはじめ、規程の  
見直し、組織運営の強化を行った。

### 三. 施設運営

#### (1) 社会事業区分

救護施設ニュー三楽園の経営

救護施設三楽園の設置経営

生活保護授産施設友楽荘の設置経営

軽費老人ホームイーエスガーデンの設置経営

(サービス区分：一般入所、特定入所)

特別養護老人ホームイーエスサウスヒルズの設置経営

(サービス区分：特養入所、短期入所、居宅介護)

軽費老人ホームケアハウスローズガーデンの設置経営

(サービス区分：ケアハウス、ヘルパーステーション、デイサービ  
スあかまつ荘の受託、高齢者福祉ホームつつじ荘の受託)

軽費老人ホームケアハウスオークパークの設置経営

(サービス区分：一般入所、特定入所)

特別養護老人ホームパインスクエアの設置経営

(サービス区分：特養入所、空床利用短期入所)

特別養護老人ホームミ・カサの設置経営

(サービス区分：特養入所、空床利用短期入所、デイサービス)

保育所K O K K O保育園の設置経営

共同生活援助サンコート

久米こども園の受託経営

(サービス区分：久米こども園、久米児童クラブ)

倭文保育所の受託経営

就労支援継続A型事業 宙の設置

養護老人ホームときわ園の受託経営

#### **四. 地域における公益的な取組について(法人実施分)**

久米児童クラブの運営受託に際し、必要な設備等の一部について法人所有資産等を活用することにより、質の向上を図りました。

# 平成 29 年度事業報告

救護施設ニュー三楽園

## 概要

利用者の社会復帰促進のため、居宅生活訓練事業を実施した。  
施設利用者の入退所の活発化を図るため、県内関係機関及び精神科病院との情報交換を積極的に実施、併せて、養護老人ホームをはじめとした、他施設への移行希望のある方の施設見学を行い、年度内に 13 名の新規入所者を受け入れるとともに 3 名の利用者が養護老人ホーム等の老人施設へ措置替えとなり、2 名自立に向けた施設替えをおこなった。  
また、久米南町社協と地域福祉法人と協議し、「地域における公益的な活動」の会議を開き協力体制を構築した。  
利用者全員に個別支援計画を策定し、個々人のニーズに応じた支援を実施した。

## 1. 施設事業運営

### (1) 利用者数

入所者数月平均 88.8 人( 月初数字 )入院者数月平均 3.9 人( 月初数字 )

### (2) 利用者の支援

#### 健康管理

利用者全員に健康診断を行い検診での要再検査の方の検査を実施した。精神科の定期受診のほか、内科、整形外科、歯科等必要に応じて受診を行った。

#### 栄養管理

給食業務は(株)フレッシュに委託するが、年 2 回の嗜好調査と年 2 回の残菜調査を実施し、利用者の嗜好を反映させた食事を提供した。肥満、糖尿病、高血圧、腎臓機能障害の方に対しては特別食を提供した。

#### 安全管理

年 2 回の夜間避難訓練、年 1 回の総合訓練、年 1 回の地震想定避難訓練を実施した。又、警察官協力ものと交通教室を開催した。

#### 生活指導

毎月生活指導及びカウンセリングを行い、基本的な生活習慣の自立のため援助を行った。

#### 作業指導

清掃、洗濯、園芸、精米、織物、外勤、内職等の作業訓練をグループワークとして行い、生産物を地域で販売し、社会参加への援助を行った。

#### 園内外活動

園外活動として、買い物、町内の文化祭参加、津山工芸展参加等を実施し、利用者個々の社会性、協調性を高めていった。また、園内活動として、季節にあった行事を利用者、職員合同で計画実施した。

#### 自治活動等

利用者個々の自主性を伸ばし、毎週の自治活動（カラオケ）又、地域社会等との交流を深めるために園行事、対話集会を実施し、自治会を側面より支援した。

#### (3) 家族会、明友会

##### 家族会

家族会定期総会を開催し、社会復帰、家庭復帰、面会、外泊、帰省等を家族と利用者及び施設が連携を持って進めて行った。

また、個別支援計画の送付を行った。

##### 明友会

明友会定期総会を開催した。交流事業として親睦日帰り旅行を実施した。又、希望者には相談・面会を実施し支援を行った。

#### (4) 施設機能強化推進事業

施設が持つ専門的な知識や技術を活かし、地域と施設との交流を促進し、ご利用者様の生きがいの高揚及び家庭復帰、社会復帰へ向けての自立意欲の助長を図った。

また、火災、地震等の災害時に備え、職員の防災教育及び総合的な防災対策を図ることにより、適正な施設運営と施設機能の充実強化を行った。

地域の相談会等に職員派遣の計画を立てる。

##### 社会復帰自立促進事業

特別事業として冒頭に記した居宅生活訓練事業を実施した。

また、明友会を支援し、利用者との交流を図ることにより、社会復帰を促進した。

##### 総合防災対策強化事業

地域住民等への防災支援協力体制の確保及び、合同避難訓練の実施により、職員等への防災教育訓練の強化を促進した。

#### (5) 職員の処遇

##### 職員数（職種別）

施設長 1 名、事務員 2 名、主任指導員 2 名（内加算指導員 1 名）  
介護職員 16 名（内居宅生活訓練事業担当責任者 1 名）看護師 2 名  
（内加算看護師 1 名）精神保健福祉士 1 名、介助員 1 名、栄養士 1  
名、非常勤医師 1 名、専従宿直員 2 名 合計 29 名

##### 健康管理

全職員に対し年 1 回の定期健診を実施した。変則勤務者は加えて 1 回の健康診断を実施した。

##### 労務管理

労働時間は、1 ヶ月単位の変形労働（勤務）時間を採用し、週の所定労働（勤務）時間は 1 ヶ月を平均して 40 時間以内とする。なお、1 日の所定労働（勤務）時間は 8 時間とする。休日は 1 ヶ月を通じて 9 日（うるう年以外の 2 月は 8 日）とする。また、夜間勤務者 2 名、早出勤務者 2 名、遅出勤務者 2 名による交代勤務を実施した。

待遇

法人内全体での昇給及び給与改定を実施した。

研修・講習

職員の資質向上と資格取得を図るため、内容を十分検討し各種研修会、講習会に参加させた。

福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間社会福祉施設従事者共済制度、岡山県民間社会福祉施設従事者育成制度へ継続加入した。また、永年勤続職員表彰を法人にて行った。

## 2. 施設事業管理

### (1) 施設整備

バラ土耕液肥栽培を開始するため、液肥システムの入れ替え・ハウス内の土の入れ替え・暖房設備増設・消毒設備と苗購入を行う。

大型ガス乾燥機を購入し入れ替える。

医務滅菌消毒器を購入し入れ替える。

厨房野菜調理器を購入し入れ替える

### (2) 改造、修理

経年使用により、不調を来したマルチエアコンの修理を継続実施した。

### (3) その他

食材運搬車を冷凍保冷車に入れ替えを行う。

# 平成 29 年度事業報告書

救護施設 三楽園

## 概要

本年度の利用者数は月平均 30,3 名(定員 30 名)とほぼ定員通りで推移した。利用者の退園者 10 名、入所者 8 名と出入りが激しい 1 年でした。緊急避難の方の受け入れが例年よりも多くありました。地域生活移行支援機能強化のための『居宅生活訓練事業』および『保護施設通所事業』に関しては、ほぼ定員の状態で推移した。グループホームなどの地域移行は 2 名であった。

利用者の健康面では、依然として代謝系および循環器系の疾患を有している利用者が増加しており、看護師と管理栄養士が連携を取り的確な医療機関の利用と食事改善の意識付けを行なった。一方、感染症対策委員会より、施設内の消毒及び徹底した手洗い、うがいの指導を行った結果、インフルエンザ、ノロウイルス等感染症の発生はなかった。

利用者の個別支援計画については、施設方針の通り年 2 回の策定とモニタリングを行い、日常生活自立を基本目標に、経済的自立および社会的自立を目指して利用者の要望をとりいれた支援計画を作成し、その計画を基に利用者の支援を行った。

また、居宅生活訓練において社会復帰を希望する利用者に対し実施機関と相談しながら、希望する地域や施設など本人の希望に叶う移行援助を継続して行った。

作業面においては、事業収入の増加のために法人内施設の各種工事ならびに工作物の作成を積極的に行い、利用者の作業工賃を上げるための基礎を確立した。

施設運営の安定化を図るために、法人内障害者系施設において定期的に施設長会議を開催し、情報を共有し連携の強化を図った。

## 1. 施設事業運営

### (1) 利用者数

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

救護施設 延べ人数 365 名(月平均 30,3 名)

・居宅生活訓練事業 延べ人数 36 名(月平均 3.0 名)

・保護施設通所事業 延べ人数 96 名(月平均 8.名)

### (2) 利用者の支援

#### 健康管理

精神科の定期受診のほか、内科、泌尿器科、歯科等必要に応じて送迎および受診に同席した。利用者全員に、健康診断を年 2 回、歯科検診を年 1 回実施した。またその結果等を基に再検査や受診治療を行い、看護師が管理栄養士や介護職員と連携をとり利用者個々の健康指導を行った。



感染症対策委員会より、手洗いとうがいの励行を基本として利用者及び職員に徹底した予防意識を持たせた。

#### 栄養管理

管理栄養士による栄養価計算に基づいた献立作成により、栄養バランスの整った食事の提供を行った。また、定期的に行う嗜好調査や残菜調査の結果を基にして、利用者の嗜好を食事に反映させた。食事の選択ができるように毎月主食選択日を2日、主菜選択日を1日設定し献立に対する楽しみの機会を設けた。

さらに食事による病状改善のために、朝礼や終礼および対話集会などを利用して、栄養指導や健康への意識付けを行った。また、糖尿食・減塩食・アレルギー食をはじめとする特別食については、事故防止のために食札による管理を徹底した。

#### 安全管理

年2回の夜間火災避難・誘導・消火訓練および年1回の地震対策訓練を実施した。また、法人全体での自然災害（台風による河川氾濫）訓練を実施した。

事故防止委員会による会議と研修会を実施し、ヒヤリハット及び施設内事故に対する問題点と予防策を検討した。

#### 虐待防止

虐待防止委員会を設置し、障害者虐待についての施設内研修を実施し、苦情処理や虐待の種類、早期発見と防止や対応について研修を行った。

#### 生活支援

利用者全員が日課に沿った生活ができるように、基本的な生活習慣を身に付け日常生活における自立ができるように支援を行った。健康および体力面においては、1日の生活リズムの調整も考慮し、毎朝利用者全員でラジオ体操を実施。

また、金銭面理を行うとともに、金銭管理能力の向上を図るため職員の指導、助言による金銭出納帳の記入を継続実施した。衛生面においては、全利用者に対して月2回のシーツ交換や散髪を実施し、衛生面に問題のある利用者に対して入浴指導を行った。

#### 作業支援

作業の内容別に「外勤グループ（近隣施設での洗濯作業、環境整備作業、食材の配送、給食食器の洗浄作業）」、「屋内グループ（清掃、園芸、農園芸、内職、織物、洗濯等）」の2グループに分け、それぞれの作業における指導および支援を行った。

作業を実施することにより生活リズムと体力を維持させ、就労意欲の継続と自立意欲の促進を図った。また、サービスの提供や物品の販売といった経済活動に参加することにより、経済的自立への意識付けを行った。

#### 園外活動

季節感を感じることができ、また社会と接する機会の多い園行事

を企画立案し、社会見学とあわせて実施した。出来るだけ多くの公共の場に出向き社会と接することにより、利用者個々の社会性や協調性を高め、社会的自立につながる活動を行った。

#### 自治会活動等

月初に利用者全員と全職員で対話集会を開催し、相互に意見交流を行い、要望を聞くことで生活支援の参考とした。また、年1回行事を主催し、今年度は法人のバスで花見及び買い物を実施した。

### (3) 明友会（退所者OB会）

明友会定期総会を年1回開催し、救護施設退園後の会員同士の交流を図った。交流事業として日帰り旅行を企画・実施し、会員相互の親睦を深めた。

### (4) 居宅生活訓練事業

当施設近隣のアパートを利用して事業を開始してから8年が経過した。現在、訓練中の利用者は、3名で「食事・金銭管理・清掃・洗濯・入浴・安全管理・服薬・調理実習」等の日常生活自立や「交通機関利用・通院・買物・社会的マナー」等の社会生活自立に向けて、担当職員2名を配置し、支援と指導を行った。

### (5) 保護施設通所事業

居宅生活訓練事業と同様、事業を開始し8年が経過した。主に救護施設退園者を対象に、退園後の安定した生活を送るために日中活動における生活指導並びに就労指導を行った。さらに、定期的に担当職員が居宅へ訪問して、日常生活自立のための支援や指導を行った。

### (6) 職員

#### 職員数（職種別）

施設長1名、事務員1名、指導員1名、介護職員11名、看護職員1名、介助員1名、栄養士1名、非常勤医師1名、管理宿直員2名 合計20名

#### 健康管理

全職員に対し年1回の定期健診を実施した。

#### 労務管理

労働時間は、1ヶ月単位の変形労働（勤務）時間を採用し、週の所定労働（勤務）時間は1ヶ月を平均して40時間以内とする。なお、1日の所定労働（勤務）時間は8時間とする。

休日は1ヶ月を通じて9日（うるう年以外の2月は8日）とする。また、夜間宿直者（専従宿直者）の配置により、日中の従業者数の確保と、夜間の安全体制の維持に努めた。

#### 研修・講習

職員の資質向上を図るため、各種研修会、講習会に参加した。ま

た、学習した知識等を共有するために施設内研修会を開催した。さらに、救護施設協議会が主催する研修会・セミナーに参加し、他の法人の職員同士との交流を行い情報交換することで意欲の向上を図った。

#### 福利厚生

職員交流の場としての「交流会」への補助金を支給した。ソウエルクラブ、社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間社会福祉施設従事者共済制度、岡山県民間社会福祉施設従事者育成制度、GLTD（団体長期傷害所得保障保険）へ継続加入した。

## 2. 施設事業管理

### (1) 施設整備

利用者の作業訓練の一環として、施設周辺の環境整備（公園整備、駐車場の草取り、JR 法面の草刈り）を継続して実施した。

### (2) 設備の修繕および改造

2 階エアコン ユニット基盤修理

3 階エアコン ユニット基盤修理

2 階男子トイレ 壁紙修理

風呂ガス給湯器 修理

防犯対策の為 監視カメラ 3 台 設置

# 平成 29 年度事業報告書

KOKKO 保育園

## 概要

KOKKO 保育園では「あそべる子」を基本方針に、豊かな人間性をもった子どもの育成を目指し、保育サービスの質の向上を図るとともに、安全で安心して園での生活ができる運営に努めた。

多様化する保育ニーズに応えるため、特別保育事業として、障害児保育、延長保育、病児・病後児保育事業を実施した。さらに特色ある保育として、温水プールを利用した水泳教室、楽しく学べる英会話教室を継続実施した。

## 1 施設事業運営

### (1) 措置児童数 年間延べ人数 (入所率 112.9%)

0 歳児	118 名
1, 2 歳児	430 名
3 歳児	263 名
4 歳児以上	408 名
合計	1,219 名

### (2) 保育関連

#### 健康管理

嘱託医による年 2 回 (春、秋) の健康診断、年 1 回の歯科検診、蟻虫検査を実施した。

#### 栄養管理と食育の推進

昨今、生活習慣の乱れから朝食を十分摂取せずに登園する児童が頻繁に見受けられる現状から、朝食の重要性、食育の考え等に基づき「食」の重要性を保護者に啓発した。

また、栄養バランスに優れた給食を提供し、楽しんで食事ができるようバイキング形式の給食も取り入れた。さらに、食物アレルギーの児童について除去食、またこれに代わる食事を個々の状態に十分配慮し提供した。

#### 保育

個々の自主性、創造性を伸長する遊びを提供するとともに、楽しく学べる英会話教室、温水プールでの水泳教室等を提供し、当保育園ならではの特色ある保育を実施した。また同時に自然と触れあひながらの屋外活動、近隣社会資源の活用など多くの体験の場を取り入れた保育を展開した。乳児に対しては緊張感を和らげ、安心して園内生活を送れるよう

家庭的雰囲気作りに留意するとともに、発育に合わせて親との連絡を密にとり、日常の健康チェックなどを行った。

#### 安全管理

災害非難訓練（火災・地震・消火訓練・不審者対応等）を毎月実施した。特に地震に対し、東日本大震災の教訓と南海、東海地震発生の危険性も踏まえ、より充実した訓練を実施した。また、6月及び11月に専門家による定期的な遊具点検、職員による危険個所の安全確認、交通指導を定期的にも実施した。

#### 保育時間

午前7時から午後6時までの通常保育及び、午後6時から午後7時までの延長保育を実施した。

### (3) 職員への待遇

#### 職員数（職種別）

園長	1名	主任保育士	1名
保育士	17名	看護師	1名
栄養士	1名	事務員	1名
嘱託医	1名		

（調理業務については業務委託した。）

#### 健康管理

一般健康診断、生活習慣病予防検診を実施した。

#### 労務管理

月9日休日制（うるう年以外の2月は8日）、複数担任制を継続実施した。

#### 研修

職員の資質向上につながる研修を厳選し計画的に参加するとともに、児童福祉諸制度の改正を理解できる研修にも参加した。また、施設内研修も実施した。

#### 福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間保育所職員共済制度、岡山県民間社会福祉従事者共済制度、岡山県民間社会福祉従事者育成制度、福利厚生センターに継続加入した。

## 2 施設事業管理

老朽個所の修繕を行い、危機管理の向上を図った。

## 3 地域における広域的な取り組み

老人福祉施設を訪問し、園児が歌を披露するなど利用者を慰問するとともに、園が主催する行事に近隣町内会へ参加を呼びかけ地域との交流を推進した。

# 平成 29 年度事業報告書

たけやり こども相談支援事業所

## 概要

たけやり障害児相談支援事業所は、障害児が児童発達支援や放課後等デイサービス等の障害児支援サービスを利用する前に、適切な支援利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行い、本人や家族が安心して暮らしていける等の支援を行い、地域において共同して日常生活又は社会生活を営むことができるよう、障害程度の状況並びにその置かれている環境に応じて相談援助を適切かつ効果的に行うことを目的としております。

29 年度についてもこれまでどおり利用者やご家族に対し、きめ細やかなサービス提供を行うことで、安心して信頼のおける指定障害児相談支援事業所として地域において重要な役割をはたしました。

また津山地域その他、新たに赤磐地域も実施エリアとなっているが、赤磐市における実績がないことから赤磐市との協議により新規で事業所を開所すべく準備を進めました。

## 1. 施設事業運営

### (1) 施設の概要

津山市津山口 327 所在の K O K K O 保育園に事業所区画を間借りし、障害児の日常生活上の相談、支援利用計画等のサービスを提供する。

### (2) 利用者へのサービス

個人の年齢、性格、生活歴、家族構成及び心身の健康状態等に常に配慮しながら個別支援方針を作成し、またモニタリングを重視し、適切な相談支援を行っていく。

#### 関係機関との連携等

津山市や他の相談支援事業所と常に密接な連携をとりながら、事業の円滑な遂行を図る為に、月一回サービス連絡会議を設け、ケース検討などの情報共有化を図る。

#### 安全・衛生管理

K O K K O 保育園が行う避難訓練へ定期的に参加していく。

### (3) 運営管理

障害児支援利用援助 1, 6 0 0 単位/月

継続サービス利用支援 1, 3 0 0 単位/月

#### (4) 職員の待遇

職員数（職種別）

管理者 1名（常勤・兼務）

相談支援専門員（契約） 3名（非常勤）

\* 相談支援専門員は常勤換算し1名以上となるよう配置する。

健康管理

定期健康診断または人間ドックを年1回実施する。

労務管理

週所定労働時間：40時間以内（1ヶ月の平均）

休日：1ヶ月9日（うるう年以外の2月は8日）

ただし、契約職員・パート職員については、雇用契約書によるものとする。

研修・講習

行政庁その他関連団体主催の研修等への積極的な参加に努め、また内部研修の実施により、職員全体の質の向上を図る。

福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間社会福祉従事者共済制度、岡山県民間社会福祉従事者育成制度、および福利厚生センターに継続加入しました。

## 2. 事業管理

環境整備

働きやすい環境作りの一環として、施設周辺の整備と衛生管理を実施する。

支援計画等の共有管理を行うため、サーバーを利用し情報の共有化を図る。使用する際のパスワード等については、しっかりと管理するよう義務づけていく。



# 平成 29 年度事業報告書

久米こども園

## 概要

今年度は保育所型認定こども園としての認可を受け再スタートした 1 年です。

平成 29 年度は子育て支援の推進を担い、教育を必要とする子ども及び保育に欠ける子どもの保育と、両サービスの質の向上にしました。そして教育・保育目標を「久米こども園のこどもは、恵まれた環境のなかで、基本的な生活習慣を身につけ、のびのびと、心豊かに育つ」をあげ、その健全な心身の発達を図り、より一層安全で安心できる園運営に努めてまいりました。入園児童の最善の利益を求め、また地域における乳幼児の発達過程を踏まえ、家庭との緊密な連携のもとに継続して適正な運営を図ってまいりました。

さらに、多様化する保育ニーズに応えるため、特別保育事業として、延長保育、一時預かり保育、預かり保育（幼稚園部）、障害児保育や、地域子育ての支援拠点事業を実施するとともに、子育て支援センターの運営にも力を入れ、「出前保育」や「なかよし会」また、「子育て相談」や「親子クラブ支援」また、就学する各小学校との接続や老人会や地域との交流事業を積極的に取り入れ、特色あるこども園として教育・保育を行ってまいりました。

## 1. 施設事業運営

(1) 措置児童数	年間延べ人数	(入園率 108%)
0 歳児	137 名	
1, 2 歳児	627 名	
3 歳児	360 名	(内 幼稚園 2)
4 歳以上児	863 名	(内 幼稚園 11)
合計	1,987 名	

## (2) 保育関連

### 健康管理

嘱託医による年 2 回(春、秋)の健康診断、年 1 回の歯科検診、尿検査(3 歳以上児)を実施した。

### 栄養管理と食育の推進

近年、朝食を十分摂取せずに登所する児童が多く見受けられる現状から、「食」の重要性を保護者に啓発した。また園においては栄養バランスに優れた給食を提供し、バイキング形式の行事食や四季折々の食材や、自家栽培の野菜を使用する親子クッキングを年 3 回実施した。またさらに、アレルギー、アトピー

一等の児童について除去食、またこれに代わる食事を個々の状態に十分配慮し提供した。

#### 保育、教育

幼児に対しては、個々の自主性、創造性を伸長する遊びを提供するとともに、屋外での遊び、プール遊び、4、5歳児は楽しく覚えられる英会話教室等を実施した。また自然と触れあいながらの屋外活動、近隣社会資源の活用等の活動など多くの体験の場を取り入れた保育、教育を展開した。乳児に対しては緊張感を和らげ、安定した生活が送れるよう家庭的雰囲気作りに留意するとともに、発育に合わせて親との連絡、報告を密にとり、日常の健康チェック、またSIDS（乳幼児突然死症候群）に対応のためのプレスチェックなど十分留意した。

#### 安全管理

災害非難訓練（火災、地震等）を毎月実施した。特に地震に対しては、鳥取中部地震が身近にあったことにより地震発生時の訓練を度々行い、また公共のJアラートを利用しながらより充実した訓練を実施した。また消火訓練では、ケスンダーを使用して実際に模擬消火を度々行ったり、地域の消防団にも協力をお願いしての火災訓練を行った。

その他、遊具点検、危険個所の安全確認、交通指導を行った。

#### 保育時間

午前7時から午後6時までの通常保育及び、午後6時から午後7時までの延長保育を行った。

### (3) 職員への待遇

#### 職員数（職種別）

園長	1名	主任保育士	1名
副主任保育士	4名	保育士	20名
看護職員	1名	栄養士	1名
事務員	1名	保育助手	1名
嘱託医	2名		
パート職員(保育士3	調理4)		7名

#### 健康管理

一般健康診断、生活習慣病予防検診を実施した。空気清浄機の長時間稼働、次亜塩素酸による感染症予防を行った。

#### 労務管理

月9日休日制（うるう年以外の2月は8日）、複数担任制を実施した。

#### 研修

職員の資質向上につながる研修を厳選し計画的に参加するとともに、児童福祉諸制度の変革を先行理解できる研修にも参加した。特に、保護者また、地域社会に対する育児相談をより充実させるため、園内研修として保護者対応について外部講師による専門的な立場からのアドバイスを受け、当該業務の資質向上につなげた。

#### ICT化

ICTの導入により、園児管理、登降園管理、各種書類等の業務負担を軽減するための取り組みを準備した。次年度から業務効率改善に向け、本格的に始めていく。

#### 福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間保育所職員共済制度、岡山県民間社会福祉従事者共済制度、岡山県民間社会福祉従事者育成制度、福利厚生センターに加入した。

### （４） 施設事業管理

修繕個所の点検を行い、計画的な修繕を図り危機管理に努めた。  
環境美化及び園児の健康管理のためにグラウンドの天然芝と花壇・畑の管理を実施した。

## 2. 一時預かり事業

### （１）一時預かりの目的

保護者が急な用事やリフレッシュなどの理由で家庭において保育が断続的に困難となる児童を園がお預かりする、また幼稚園部においては、長期休暇を利用したの預かり保育事業を実施した。

### （２）措置児童定員数 概ね5人～7人（幼稚園部を含む）

### （３）保育時間

午前8時30分より午後5時

午前8時30分より午後4時30分（幼稚園部）

土・日曜日、祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）は休み

### （４）保育料

3歳未満児 1日 2,100円 半日 1,600円

3歳以上 1日 1,800円 半日 1,300円

(給食費・おやつ代含む)  
幼稚園部 1日 800円  
(給食・おやつ代を含まず)

### 3. 地域子育て支援拠点事業

#### (1) 事業の目的

少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大等といった問題が生じている。このため、地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点を設置し、地域の子育て支援機能の充実を図り、子どもの健やかな育ちを促進した。

#### (2) 事業の内容

- ・ 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ・ 子育て等に関する相談・援助の実施
- ・ 地域子育て関連情報の提供
- ・ 地域へ出向いて子育て親子への遊びの提供
- ・ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
- ・ 外部講師による遊びの提供及び講演会の実施

### 4. 地域における公益的な取り組み

#### (1) 久米地域及び老人会とのふれあいや親子クラブへの子育て支援

- ・ 地域の19老人会との交流を年4回持ち、園児と一緒に野菜植えをしたり、園児とのふれあい遊び、また行事に招待をして子どもたちの成長を知っていたきながら、一緒に行事参加をしてもらった。
- ・ 地域のイベントに参加し、踊りなどを披露し地域とのコミュニケーションを取りながら交流の推進を図った。
- ・ 地域の親子クラブの活動推進と援助活動を行う。

# 平成29年度研修・講習報告書

施設名 久米こども園

(外部研修)

対象職種	時期	場所	研修名	研修内容
主任保育士	4月	岡山市	保育実習研修	保育実習計画、実施
保育士	5月	津山市	運動会実技研修	運動と遊び研修
保育士	5月～1月	津山市	ブロック人研	人権に関する研修
保育士	6月	津山市	救急法研修	救急救命士による講義と実技
保育士	6月・10月2月	津山市	年齢別各担当者会	保育内容に関する研修
保育士	6月～12月	津山市	家庭支援研修	保育内容研究
保育士	6月～3月	津山・岡山市	発達障害児支援保育士研修	発達障害児への理解
栄養士	6月～7月	岡山市	食育推進全国大会	食育推進に関する研修
主任保育士	6月・7月	津山市	子育て講演会	子育て支援者への研修
保育士	7月	津山市	子育て講演会	子育て支援者への研修
保育士	8月	大阪府	家庭教育支援者研修会	歌、踊り等保育実践研修
看護師	8月	津山市	サマースクール	健康専門知識の向上
保育士	8月	津山市	子ども健康セミナー	健康専門知識の向上
栄養士	8月	岡山・津山	給食関係者研修	食育と中毒予防の知識の向上
保育士	8月	津山市	給食管理者研修	食に関する研修
保育士	9月	津山市	感染症対策研修	食に関する研修
栄養士・保育士	9月	津山市	地域子育て従事者研修	感染症予防と対策
保育士	10月	津山市	津山市保育所職員研修	子ども子育て新制度研修
保育士	10月	岡山市	楽しい発表会研修	家庭と園の食研修
施設長	10月	津山市	県総合社会福祉大会	保育内容研修
保育士	10月	岡山市	社会福祉大会	認知症にならない脳トレーニング
栄養士	11月	津山市	保育所食育に関する研修	権利と擁護研修
保育士	11月	岡山市	研修	保育所における食育研修
施設長	11月	津山市	就学前教育・カリキュラム	保育指針教育要領の改訂
保育士	11月	津山市	幹部研修	キャリアパス研修に関する研修
保育士	12月	津山市	保育所職員研修	保育内容研修
保育士・施設長・主任保育士	12月	津山市	保育職員研修(1・2・3年目) 保育事業研修大会	新任研修 保育内容研修
施設長・保育士	1月	津山市	保育園・幼稚園合同研修	保育指針教育要領の改訂
施設長・保育士	1月	津山市	津山市保育所職員研修	家庭支援と保護者対応
	2月	津山市	津山市保育所職員研修	家庭支援と保護者対応

保育士	2月	津山市	保育園・幼稚園合同研修	特別支援教育に関する研修
保育士	2月	津山市	子育て支援研修	アンガーマネジメント研修
保育士	3月	津山市	管理監督幹部研修	改定保育所保育指針
施設長・保育士	3月	岡山市	園長研修	改定保育所保育指針
士	3月		相談援助セミナー	子育て支援相談研修
施設長			新任職員研修	児童分野新任職員研修
保育士				
保育士				

(内部研修)

対象職種	時期	講師 (進行係)	研修名	研修内容
採用者すべて 職員全員	採用時随時 4月～3月	施設長 職員	・採用時研修会 ・研修伝達研修	・社会福祉施設職員の心構え、規律等習得 ・受講者による伝達研修
職員全員	4月	外部講師 職員	・保護者対応 他	・外部講師による保護者対応
職員全員	7月	消防署	・救急法研修	・外部講師による救急法
職員全員	9月	消防団	・火災対策研修	・火災予防と対応研修
職員全員	12月	消防署	・火災対策研修	・火災予防と対応研修
職員全員	1月	職員 外部講師	・保護者支援 他	・外部講師による子育て講演会

# 平成 29 年度事業報告書

久米児童クラブ

## 概要

津山市より平成 29 年 10 月から久米児童クラブ（放課後児童健全育成事業）の運営受託を受け、これまで久米地区保育所運営の経験と半年間の運営実績を活かし、津山市条例と指針にのっとりこれまで以上にサービスの質の向上を図り、より一層安全で安心できる運営に努めました。そして、地域における子育て支援拠点の推進を担い、地域の小学生の放課後保育に欠ける子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図り、学力の向上と障害児の積極的な受け入れを行い利用児童と保護者の最善の利益を求める児童クラブとして、適正な運営を図ってまいりました。

豊かな人間性をもった子どもを育成し、子どもの健やかな成長を図ることを目的にして運営に努めました。

さらに、当法人のスケールメリットを生かし連携する久米こども園及び他の福祉施設の協力によりより一層レベルの高い児童クラブを目指しました。

## 1. 児童クラブ事業運営

(1) 利用定員数 定員 90 名 (2 クラス)

(2) 保育関連

### 健康管理

アルコール・次亜塩素酸による感染症予防を実施した。

### 栄養管理

学校休業日において久米こども園厨房で作った栄養バランスのとれた安心で安全な給食を提供した。さらに、アレルギー、アトピー等の児童について除去食、またこれに代わる食事を個々の状態に十分配慮し提供した。

### 保育

個々の自主性、創造性を伸長する遊びを提供するとともに、屋外での遊び。また自然と触れあいながらの屋外活動、近隣社会資源の活用等の活動など多くの体験の場を取り入れた保育を展開した。安定したクラブ内生活が送れるよう家庭的雰囲気作りに留意した。

### 安全管理

災害非難訓練（火災、地震等）を実施した。特に来年度からは

地震に対し、南海、東海地震発生危険性も言われていることから、より充実した訓練を計画実施したい。また消火訓練、交通指導を定期的に行う。

開所時間

「学校課業日」

午後1時半より午後6時半を原則とする。

「学校休業日」

午前7時半から午後6時半を原則とする。

### (3) 職員への待遇

職員数(職種別)

管理者 1名

支援員 2名以上

その他 若干名

健康管理

一般健康診断、生活習慣病予防検診を実施した。

労務管理

月9日休日制(うるう年以外の2月は8日)。

研修

職員の資質向上につながる研修を厳選し計画的に参加した。

福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間保育所職員共済制度、岡山県民間社会福祉従事者共済制度、岡山県民間社会福祉従事者育成制度、福利厚生センターに加入した。

### (4) 施設事業管理

修繕個所の点検を行い、計画的な修繕を図り危機管理に努めた。  
備品の計画的な更新を図った。

### (5) 地域における公益的な取り組み

①地域の道路・河川等の清掃奉仕活動をした。



# 平成 29 年度事業報告書

倭文保育所

## 概要

平成 23 年度津山市より倭文保育所の運営受託が開始し、無事 7 年が経過いたしました。

これまでの法人内での保育所運営体験を活かし、独自性を出しつつ、保育サービスの質の向上を図り、安全で安心できる運営に努めました。そして地域における子育て支援拠点の推進を担い、保育に欠ける子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図り、入所児童の最善の利益を求める保育所として、地域における乳幼児の発達過程を踏まえ家庭との緊密な連携をもとに、継続して適正な運営を図ってまいりました。

## 1. 施設事業運営

### (1) 措置児童数 年間延べ人数 (入所率 131,4%)

0歳児	67名
1,2歳児	246名
3歳児	189名
4歳以上児	444名
合計	946名

### (2) 保育関連

#### 健康管理

嘱託医による健康診断を年 2 回、歯科検診を年 1 回実施した。

3 歳以上児は尿検査を実施した。

#### 栄養管理

「食育」の重要性を保護者に啓発すると共に、栄養バランスのとれた完全給食を実施した。また、食事を楽しむ観点から、バイキング形式の給食も実施した。アレルギーがある園児に対し、個々の症状に配慮した食事を提供した。加えて食中毒に関する調査、研究、対応を行った。

#### 保育

幼児に対しては、個々の自主性、創造性を伸長する遊びを提供するとともに、屋外での遊び、プールでの遊び、及び楽しく覚えらるる英会話教室を実施した。また自然と触れあいながらの屋外活動、近隣社会資源等を活用しての体験の場を取り入れた保育を展開した。乳児に対しては緊張感を和らげ、安定した園内生活を送れるよう

家庭的な雰囲気作りに留意するとともに、発育に合わせて親との連携、報告も密にとり、日常の健康チェック、また SIDS(乳幼児突然死症候群)に対応のためのチェックなど十分留意した。

#### 安全管理

毎月、災害避難訓練を実施し、火災避難時には消火訓練も行った。また、固定遊具の点検を毎月行うとともに、共同スペースを中心に安全に則した観点からの配置変更、整理整頓を励行した。乳幼児突然死症候群防止のため就寝時の観察、散歩等の危険個所の安全確認、交通安全指導も実施した。

#### 保育時間

保育標準時間：午前7時から午後6時までの通常保育及び午後6時から午後7時までの延長保育を実施した。

保育短時間：午前8時30分から午後4時30分までの通常保育及び午前7時から午前8時30分までと午後4時30分から午後7時までの延長保育を実施した。

### (3) 地域における公益的活動への取組

地域のイベント参加や未就学児に保育所開放し、情報発信した。又、地域の6老人会を年3回招待し、ふれあい交流、食事の提供を行ったり老人ホーム(ときわ園)に訪問し、多世代交流を目的とした行事を行った。他、学生ボランティアを受け入れ、次世代の育成に取り組んだ。

### (4) 職員の待遇

#### 職員数(職種別)

所長	1名	主任保育士	1名
副主任保育士	2名	保育士	10名
看護師	1名	調理員	2名
栄養士	1名	事務員(兼務)	1名
嘱託医	2名		

#### 健康管理

一般健康診断及び生活習慣病予防検診を実施した。また、栄養士・調理員(毎月)保育士(年6回)の検便を実施し、ノロ検査においても全職員(年1回)実施した

#### 労務管理

月9日休日制、(うるう年以外の2月は8日)を実施した。また、早出勤務、遅出勤務を設定し、延長保育に対応した。

#### 研修・講習

資質、能力の向上につながる研修を厳選し参加した。また、内部研修においても機能の充実を図った。

#### ICT化

ICT化導入により、園児管理、登降園管理、各種書類等の業務負担を軽減するための取り組みを準備した。次年度から業務効率改善に向け、本格的に始めていく。

#### 福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間保育所職員共済制度、岡山県民間社会福祉従事者共済制度、岡山県民間社会福祉従事者育成制度、福利厚生センタ - に継続加入した。

## 2. 施設事業管理

運動場及び園庭周辺の樹木、照り返しや熱環境の改善、多降雨時の排水効果、身体への衝撃緩和、精神的安定等に効果のある芝の管理を重点的に継続し、環境美化に努めました。

## 平成 29 年度研修・講習計画報告書

施設名 倭文保育所

( 外部研修 )

対象職種	時期	場所	研修名	研修内容
主任保育士	4月	岡山市	保育実習研修	実習生受入れ
保育士	4月	津山市	保護者対応研修	保護者対応
保育士	4月	津山市	幼児音体指導者講習会	マーチング指導
保育士	5月	津山市	運動あそび講習会	運動あそび、種目研修
保育士	5～1月	津山市	ブロック人研	地区別ブロック人研
主任保育士、保育士	6月、1月	岡山県	保育所主任保育士研修	家庭支援のあり方
保育士	6～2月	津山市	子どもを主体とした遊びと環境	子どもの遊びの研修
主任保育士	6～3月	岡山市	県保協保育研究部会	3歳未満児の保育研究
保育士	6～8月	津山市	救急法研修	人命救急の方法
保育士	7月	岡山市	合同入職式	新人研修、接遇等について
施設長、調理員	7月	津山市	幼児交通安全指導者研修	交通安全の意識向上
保育士	8月	広島県	サマースクール中国大会	専門知識の向上
栄養士	8月、10月	津山市	特定給食施設関係者研修	衛生管理、食育について
施設長、主任保育士	8月	津山市	園長・主任合同研修	地域の昔話、語りべ
保育士	8月	岡山市	サマーセミナー	手遊び、歌あそび指導
主任保育士	8月	岡山市	保育会保育研修会	新保育指針の解説
調理員	8月	津山市	特定給食従事者研修	衛生管理、職における発達
保育士	8月	岡山市	ことばあそび研修	読み聞かせ、支援児対応
保育士	9月	津山市	保育幼児教育ステップアップ研修	専門知識の向上
栄養士	9月	津山・岡山	給食施設管理者研修	塩分摂取指導
保育士、看護師	10月	津山市	衛生講習会	感染症対応と処理
保育士	10月	津山市	楽しい発表会研修	発表会演技指導
保育士	10月	津山市	食育に関する研修会	食育活動について
施設長	11月	津山市	幹部研修	キャリアパス研修
副主任、保育士	11月	津山市	就学前教育・保育カリキュラム研修	キャリアアップについて
保育士	11月	岡山市	3未サービス向上支援研修	乳児保育の基礎
保育士	11月、3月	津山、岡山	新任職員研修	新任保育士の心構え
保育士	11月	岡山県	人権を大切にする研修	自尊感情のあり方

保育士 施設長、主任保育士	1 1月 1 2月	津山市 津山市	保育所職員研修 津山市保育事業研修大会	リズムジャンプ研修 手遊び、歌あそび研修他
保育士 主任保育士、保育士	1月 1月、2月	津山市 津山市	津山市保育所職員研修 保幼こども園合同研修	家庭支援と保護者対応 危機管理、新保育指針
施設長、副主任他	2月	津山市	幹部研修	保育所保育指針の改定
施設長、副主任	3月	津山市	園長研修	保幼小の連携

(内部研修)

対象職種	時期	講師	研修名	研修内容
採用者すべて	採用時随時	施設長	採用時研修会	社会福祉施設職員 の心構え、規律 習得等
職員全員	4 ~ 3月	職員	研修伝達研修	受講者による伝達研修 (事故、虐待防止含む)
職員全員	5、6、10	職員	統一会議	専門知識向上に向けて
職員全員	9月	消防署	不審者対応研修	火災予防と対応研修
職員全員	10月	警察署	火災対策研修	不審者への対策と対応

# 平成 29 年度事業報告

軽費老人ホーム イーエスガーデン

## 概要

平成元年に軽費老人ホームとして開設。以来 28 年間、在宅生活が困難な高齢者にサービス提供を行うとともに、平成 16 年に特定施設入居者生活介護の指定を受け、介護が必要な者も受け入れているが、利用者の高齢化が進み心身機能の低下した者が増加している。また、有料老人ホームやサービス付高齢者住宅等の増加にともない入所希望者が減少している。

この様な状況下で、利用者が生きがいを持ち楽しい園生活が送れるよう、各種園行事やクラブ活動等の充実・活性化を図るとともに、介護予防や健康増進活動に積極的に取り組んだ。

園生活の継続が困難な利用者については、個々の身体状況に応じて特養やグループホーム等の新たな生活の場を確保するとともに、法人内施設等と連携を図りながら入所希望者の確保に努めた。

また、サービスの質の確保を図るため業務改善と自己評価を行うとともに、外部研修会への参加や内部研修会等を充実し職員の資質向上を図った。

## 1 施設事業運営

### (1) 入所者数

一般居室 入所定員 29 名 (年間平均利用者数 26.8 名)

特定居室 入所定員 21 名 (年間平均利用者数 20.1 名)

### (2) 年間平均入所者数 49.4 名

### (3) 入所者へのサービス

#### 事業運営

法人内施設等と連携し入所希望者の確保を図るとともに、利用者の身体状況に応じた新たな生活の場の確保に努めた。

#### 健康管理

- (a) 一般施設利用者は月 1 回以上、特定施設利用者は週 2 回以上、随時に看護職員によるバイタルチェックを実施した。
- (b) 隣接の健診センターや積善病院で、年 2 回の健康診断を実施し、健康状態の把握に努めた。
- (c) 嘱託医師による健康相談を毎週 1 回実施し、健康管理及び療養上の指導を行った。
- (d) 積善病院の主治医と連携を密にし健康維持と回復に努めた。
- (e) 健康体操を継続的に実施し身体機能の維持を図った。
- (f) 日常生活を営むのに必要な機能を改善しその減退を防止するため、個別・集団リハビリテーションを実施した。
- (g) 感染症予防対策と事故防止対策の徹底を図った。
- (h) 認知症や成年後見制度に関する研修会等に積極的に参加し、専門知識

の習得に努めた。

#### 栄養管理

- (a) 栄養士の指導の下、バランスが取れ利用者の身体状況や体調に合わせた食事を提供した。
- (b) 選択メニューや行事食等で、嗜好調査を反映した食事を提供した。
- (c) 異物等の混入を防止し、適切な加熱で食事を提供した。
- (d) 食中毒予防のため衛生管理を徹底した。

#### 安全管理

- (a) 火災及び地震・風水害を想定した避難訓練等を隔月に実施した。
- (b) 積善病院で行われる消火訓練へ参加した。

#### 衛生管理

- (a) 一般利用者の入浴は毎日、特定施設利用者の特浴及び介助浴は、週3回行った。
- (b) 大浴場の清掃及び残留塩素測定を毎日実施するとともに、レジオネラ属菌に係る水質検査を年1回実施した。

#### 行事

四季の行事等を取り入れた余暇活動を実施し、利用者の生き甲斐を支援した。

#### (a) 年間

お花見(4月)・お涼み会(7月)・敬老祝賀会(9月)・園外小旅行(10月)  
榎まつり(11月)・クリスマス忘年会(12月)・節分祭(2月)・ひな祭(3月)

#### (b) 月間

誕生会・ミニ喫茶(隔月)・映画鑑賞会(月2回)  
ショッピング・ドライブ・農園クラブ・詩歌クラブ・カラオケクラブ  
手芸クラブ・習字クラブ・選択メニュー・音楽会(隔月)  
健康体操(一般&特定)(週1回)  
ラジオ体操・介護予防体操(サラスバ体操)(毎日)

#### 介護

- (a) 特定施設利用者へ、特定施設サービス計画に基づいた介護サービスを提供した。
- (b) 入居者の身体状況に応じた機能回復訓練を実施した。

#### 自己評価の実施

業務の点検と改善を目的として自己評価を実施した。

#### (4) 職員への待遇

職員数(職種別) . . . . .【合計18名】

#### (a) 共通職員

施設長1名、事務員2名、栄養士1名、嘱託医師1名

#### (b) 一般職員

介護職員3名(うち特定介護職員兼務1名、看護職員兼務1名)  
看護職員1名、宿直員(交替勤務)2名

#### (c) 特定職員

生活相談員1名、介護職員7名(うち事務員兼務1名)、看護職員1名

### 健康管理

定期健康診断を夜勤従事職員は年2回、その他職員は年1回実施した。また、介護職員の腰痛予防健診を年2回実施した。

### 労務管理

週所定労働時間：40時間以内（1ヶ月の平均）

休日：月9日（2月は8日）

### 待遇

定期昇給を実施した。

### 研修・講習

- (a) 岡山県及び岡山県老人福祉施設協議会、岡山県社会福祉協議会等が主催する各種研修会・講演会等に参加した。
- (b) 介護福祉士の資格取得に必要な講習会への参加を支援した。
- (c) 嘱託医師と連携し、感染予防等の各種施設内研修を実施した。
- (d) 今年度の重点研修として、高齢者虐待防止の研修を実施した。

### 福利厚生

- (a) 社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間社会福祉従事者共済制度、岡山県民間社会福祉従事者育成制度及び(福)福利厚生センターに継続して加入した。

## 2 施設事業管理

### (1) 施設整備

施設内外の環境美化に努めるとともに、各種保守点検は外部委託も行った。施設の定期点検や日常点検を実施し不良箇所の早期発見に努めるとともに、年次計画に基づいた計画的な改修工事を行った。

### (2) 修繕・設備更新

- ① 本館屋上折れ板屋根再塗装工事
- サラスパティ ナースコール設備改修工事
- 東外階段1F天井外壁再塗装工事

## 3 地域における公益的な取組

### (1) 地域美化活動

年2回、法人施設で行う近隣の河川敷草刈り作業に人員を派遣した。

### (2) 介護相談等の対応

地域交流目的の祭りに協賛・地域包括支援センターとの連携等をきっかけに、介護・福祉サービスの相談等に積極的に対応した。



# 平成 29 年度事業報告書

ケアハウス オークパーク

## 概要

オークパークの方針である「日常生活の自立のための援助」による「身体能力の維持」を図るべく、支援の充実を継続した。

内容として一般のご利用者については、健康管理をはじめ生活における様々な助言を行い、身体機能の維持に努めた。

特定施設入居者生活介護および介護予防特定施設入居者生活介護のご利用者については、「日常生活自立継続のための支援を行う」という当施設の介護方針のもと、日常生活において職種ごとの相互連携による支援を行い、ご利用者の身体能力の減退及び疾病の悪化防止のため顧問医や関係医療機関およびご家族との密な情報交換をすすめることにより、ご利用者の精神面および身体面での細やかなサービス提供を行った。

安全管理においては、火災、風水害、夜間想定等多様な防災訓練を実施することで、職員・利用者とも経験・知識を深め、緊急災害に備える体制を構築した。また、施設内での事故については、インシデントレポートの提出を義務付け、リスクマネジメント委員会を通じてその原因の究明と対策を共有し、必要であればご家族の協力も得て再発防止に努めることを継続実施した。

設備関係においても、開所 15 年が経過し、居室及び共有スペースにおいても老朽化に伴う不具合が多発したが、ご利用者への生活に影響がでないよう迅速に対応するとともに、計画的に設備点検を行うことで不具合箇所の早期発見に努めた。

職員に対しては、定期健康診断および腰痛検査を実施して健康面をサポートし、また各種外部研修会への参加や施設内研修会を開催することにより、個々の資質と施設サービスと利用者支援の向上を図った。

## 1. 施設事業運営

### (1) 利用者数

年間利用総延べ人数 17,005 名 (一般 7,944 名、特定 9,061 名)

月初在籍平均利用者数 49.2 人

(年度末利用者 一般 22 名、特定 27 名)

### (2) 利用者年齢層 69 歳～100 歳 (平均年齢 86.6 歳)

利用者在籍期間 1 ヶ月～15 年 6 ヶ月 (平均在籍期間 4 年 3 ヶ月)

### (3) 入居者へのサービス

#### 健康管理

看護師による日々のチェックや健康診断および嘱託医との連携により、疾病を早期発見し治療することに努めた。

(a) 看護職員により定期的に利用者の体重およびバイタルチェックを実施

- し、疾病の早期発見や体調管理に努めた。
- (b) 健診センターまたはかかりつけの医療機関で年 1 回の健康診断を実施し、健康状態を確認した。
  - (c) 嘱託医による治療および健康相談を実施し、療養上の健康指導を行った。
  - (d) 協力医療機関である積善病院、更に他の医療機関との連携を強化し、健康維持と病気の治癒に努めた。
  - (e) 正しい服薬が不安な利用者に対して、看護職員の管理のもと適切な配薬および服薬確認を行った。
  - (f) 夜間時間帯の疾病等に関してはオンコール体制により対応した。
  - (g) 医療の便宜を図るために、利用者の医療機関への送院を行った。

#### 栄養管理

栄養士の管理のもと、利用者の健康状態に合わせたバランスを考慮した食事の提供を行った。

- (a) 利用者の身体状況に合わせた食事形態の提供を行った。
- (b) 嗜好調査および残食調査の結果を、日々のメニューに反映させると共に選択メニューや行事食等の工夫に努めた。
- (c) 食事上の便宜、健康増進および利用者の満足度を向上させるため、毎月給食会議開催し内容を協議した。

#### 安全管理

安心・安全な施設運営のため避難訓練や事故防止のための情報共有、意識の向上に努めた。

- (a) 火災及び風水害想定での避難訓練および通報訓練、消火訓練また消防署立ち合いの避難誘導訓練を年間合計 6 回実施した。
- (b) 津山地区全施設の安全協力体制の維持継続を行った。
- (c) 発生したインシデントやアクシデントに関してリスクマネジメント委員会を中心として、原因の究明およびその対策を協議し、職員間で共有し再発の防止に努めた。

#### 衛生管理

毎日入浴ができる体制を維持し、害虫防除や感染症予防等衛生管理に努めた。

- (a) 特定利用者のうち身体能力および本人の希望により判断し、見守り浴・特浴とも週 2 回実施した。
- (b) 浴室の清掃および残留塩素測定は毎日行い記録し、浴槽水の入替は週 2 回行った。レジオネラ菌にかかる浴槽水の水質検査は年 2 回実施し、結果は良好であった。
- (c) 貯水槽の清掃は年 1 回実施し、同時に行った飲料水の水質検査の結果は良好であった。
- (d) 厨房内のねずみ・害虫調査を毎月行い、定期駆除を年 1 回実施した。
- (e) 冬場の感染症予防の為に 12 月から 3 月の 4 か月間、施設内重点箇所の塩

素除菌を毎日実施した。

#### 園行事

画一的になりがちな施設での生活を、満足いく楽しいものに彩付けできるよう取り組んだ。

- (a) 季節感を反映した下記の年間行事を実施した。  
お花見会（4月） お涼み会（8月） 敬老会およびミニコンサート（9月） 文化祭（11月） クリスマス忘年会（12月） 雛祭り会（3月）
- (b) 引きこもり防止及び外出促進啓発のため、下記の月間行事を実施した。  
誕生会、ショッピング、ミニ喫茶、お楽しみ会、ドライブ  
クラブ活動（紙粘土教室）
- (c) 年間行事に関して、満足度アンケートを実施した。

#### 生活および介護

- (a) 特定利用者に対して、支援計画に基づいた介護サービスを提供した。
- (b) 特定利用者に対して、レクレーションと介護予防体操を週2回実施した。
- (c) 全利用者を対象に、体力維持のため土日祝日を除いてラジオ体操を実施した。
- (d) 特定利用者対象に、機能回復訓練を毎月1回実施した。
- (e) 毎月運営懇談会を開催し、利用者からの要望や施設からの連絡事項を話し合い、また意見交換を行うことで風通しの良い施設運営が図れる場とし、内容についても参加されなかったご利用者へも把握して頂けるよう議事録を利用者全員に回覧した。
- (f) 施設利用者へ生活全般におけるアンケート調査を実施し、生活面での要望や意見を収集し、施設生活の改善に努めた。

#### (4) 職員への待遇

以下の体制の職員数とした。

- (a) 共通職員 施設長1名、事務員1名、栄養士1名
- (b) 一般職員 介護職員1名、宿直職員2名（交替勤務）
- (c) 特定職員 生活相談員1名（計画作成担当者兼務） 介護職員7名  
看護職員2名（内1名は機能訓練指導員兼務、内1名は非常勤）
- (d) その他 非常勤嘱託医1名

【合計17名】

#### 健康管理

- (a) 定期健康診断または人間ドックを年1回実施した。ただし、昼夜勤務職員は年2回実施した。
- (b) 介護職員に対して年2回腰痛健康診断を実施した。

#### 労務管理

- (a) 週所定労働時間：40 時間以内（1 ヶ月の平均）
- (b) 休日：月間 9 日（閏年以外の 2 月は 8 日の休日）
- (c) 夏季休暇および冬期休暇：それぞれ 3 日

#### 研修・講習

- (a) 岡山県および社会福祉協議会主催の各種研修や介護技術・サービス向上のための研修会に参加した。
- (b) 外部研修会に参加した職員による施設内研修会を実施した。
- (c) 各種委員会による施設内研修会を実施した。

#### 福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間社会福祉従業者共済制度、岡山県民間社会福祉従事者育成制度、福利厚生センターおよび GLTD（団体長期障害所得保険）に継続して加入した。

## 2. 施設事業管理

### (1) 施設整備計画

施設内の整理整頓および施設周辺的环境整備に努め、各種保守点検を含む専門業務に関しては外部に委託した。

施設の付帯設備に関して定期的に点検を行い、早期に不良箇所の発見と修繕に努めた。

### (2) 備品・設備整備

各居室内不具合箇所（温水器、洗面台及びキッチン混合栓等）取替工事

共有スペース不具合箇所（1 階トイレ換気扇、屋上消火設備等）取替工事

## 3. 地域における公益的な取り組み

「地域における公益的な取り組み」についての内容を職員に理解させ体制の基礎を築き、また災害時の福祉避難所として機能できるよう災害時備品の確認、点検を実施した。

# 平成 29 年度事業報告書

ローズガーデン・あかまつ荘・つつじ荘

## 概要

ケアハウス及び高齢者生活福祉ホームの利用者の身体機能低下にともない、介護保険サービスの適用を受ける方の割合も年々増加しており、日常生活に援助を要する方が、ほとんどとなっております。(2 施設 38 名中 31 名)

このような方々の入居継続と、住み慣れた地域での生活を可能とするため、**高齢者生活福祉センター、ヘルパーステーション、デイサービスセンター及び居宅介護支援事業所を併設する当ケアハウスは、それぞれの事業が密接に連携し、入所者個々のニーズに合わせたサービス提供を図りました。**

高齢者生活福祉ホームつつじ荘・赤磐市あかまつ荘の管理においては、平成 29 年4月から平成 34 年 3 月 31 日までの5カ年契約で赤磐市公の施設指定管理者制度の指定を受け、継続して事業管理を行いました。デイサービスセンターあかまつ荘においては、老朽化の目立つ設備の改善を行い利用者数の増員を図り、介護に関しては県指定の指定介護事業、予防に関しては介護予防・日常生活支援総合事業に取り組むと共に、高齢者の方や近隣の住民の方々の活動の拠点としても活用し、地域活性を地域福祉の充実を図りました。**ヘルパーステーションにおいても、介護予防・日常生活支援総合事業に取り組み、軽度の方の生活機能の維持又は向上を図りました。**

### 1. 施設事業運営

#### (1) 入所者数

##### 1 ケアハウス ローズガーデン

入所者の状況(入所定員 30 人)

3 月末入所者数 28 人 (男性 8 人 女性 20 人)

年間延入所者数 10,133 人

月平均入所者数 27.7 人

##### 2 赤磐市 あかまつ荘

利用状況

(H30 年 3 月末)

事業名	通所介護事業	日常生活支援総合事業(予防相当)	日常生活支援総合事業(緩和型サービス)
利用定員	1 日 20 人		1 日 10 人
利用登録者数	23 人	8 人	3 人
利用延日数	310 日	310 日	51 日
利用延人数	2003 人	445 人	97 人
平均利用者数/日	6.5 人	1.4 人	1.6 人

介護度別利用者数(延人数)

支援 1.2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
445	1,152	341	147	310	53	2,448

3 訪問介護事業  
利用状況

介護予防		要介護		
実人員	延人数	実人員	延人数	平均介護度
96	1,203	112	1,442	1.4

4 高齢者生活福祉ホームつつじ荘(入所定員 10 人)

月実入所者数合計 120 人

月平均入所者数 10 人

(2) 入所者へのサービス

1 健康管理

ケアハウス ローズガーデンの入所者に、年 1 回健診を実施しました。また、佐伯北診療所等関係医療機関と密接な連携をとり体調管理・維持に努めました。介護保険利用者には、担当介護支援専門員及び介護サービス利用事業所と情報交換を密にし、入所者の生活の維持向上に努めました。

毎日午後の活動を実施し、毎週 1 回、転倒予防体操、週 2 回、レクレーションを実施し、入所者の機能回復、残存機能の低下防止を図りました。

2 栄養管理

栄養士による嗜好調査を数ヶ月おきを実施し、選択メニューによる食事、季節感があり栄養バランスの取れた食事を提供しました。また、塩分の摂りすぎを抑制するため、入所者のご了承の上、食堂に調味料を置かないようにしました。

3 安全管理

災害訓練を年 3 回実施し、うち 1 回は、水害・土石流を想定した訓練を行いました。避難場所についても担当区長と連絡先等の確認を行いました。

入浴については介護の必要な要介護(支援)者については、ヘルパーステーション及びデイサービスの活用により事故の防止に努めました。

4 衛生管理

入浴は毎日可能とし、レジオネラ症の防止のために次亜塩素酸ソーダーによる滅菌の他、浴槽水は土・日曜以外の毎日入替を行い

ました。ノロウイルス、O-157 等による感染症の防止のために、季節を問わず食前の手洗いや館内消毒により衛生管理を徹底しました。

## 5 行事

ケアハウス・高齢者生活福祉ホームの入所者に

年間行事・・・おすずみ会、クリスマス、敬老会

月間行事・・・買い物外出、誕生会、カレンダー作り

随時・・・保育園児、中学生、その他ボランティアによる音楽会等を実施しました。

あかまつ荘の利用者に

ボランティアによる音楽会、クリスマス会、敬老会等行いました。

## (3) 職員への待遇

### 1 職員数

30.3.31 現在

区 分	ケアハウス	通所介護	訪問介護	高齢者福祉ホーム	計
管 理 者	1	1	(1)	(1)	2 (2)
事 務 員	(1)				(1)
生活相談員	1	2 (2)			3 (1)
介護職員	1	4 (2)			5 (1)
機能訓練指導員		1			1
看護職員		(2)			(2)
ヘルパー			6		6
栄 養 士	1			(1)	1 (1)
生活援助員				2	2
宿 直 員	2			(2)	2 (2)
計	6 (1)	8 (6)	6 (2)	2 (4)	22 (10)

パート職員を含む。( )内は兼務職員を再掲。

### 2 健康管理

職員の健康管理として生活習慣病予防健診、婦人科検診、介護職員

に対しては腰痛予防健診(年2回)等の定期健診を実施しました。

### 3 労務管理

休日9日(4週間に対し8日間)を実施しました。

### 4 研修・講習

今までの研修経験回数を考慮し、職員の資質向上のための外部研修会等に積極的に参加させました。また苦情解決、高齢者虐待、感染症予防等施設内研修会を定期開催し職員の資質向上を図りました。

### 5 福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、福利厚生センター(ソウェル)、岡山県民間社会福祉従事者共済制度および岡山県民間社会福祉従事者育成制度へ継続加入しました。

## 2. 施設事業管理

### (1) 地施設整備計画

施設周辺の環境美化に努めるとともに、各種機器の保守点検の外部委託を継続しました。

### (2) 地域における取組

市が育成する「認知症ボランティア」が主導で企画・運営する事業「さんさんカフェ」等に場所を提供し、その際ご家族様やご本人様からのご相談等により、近隣の方で困っておられる方の相談に積極的に対応し助言を行うなど、赤磐市の包括支援センター等と連携し、地域貢献を図りました。



# 平成 29 年度事業報告書

特別養護老人ホーム  
パインスクエア

## 概要

特別養護老人ホームがご利用者さまにとってごく日常の生活の場であるために、ご利用者さま目線で行き届いたサービスが提供できるようきめ細かな配慮を行うことはもとより、ご自身で出来ることがあればさりげない支援を行うなど、暮されている方の生きがいのある住まいとして、お一人一人の「個」を尊重したサービスの提供を心がけ、実践いたしました。

ショートステイ事業についても地域包括支援センター、居宅介護支援事業所と密に連携し、空床利用型として可能な限りの受入により地域の在宅福祉においても役割の一端を担いました。

人財育成においては、医療と介護の連携を担うべく胃瘻と喀痰吸引研修登録機関として登録し、法人内該当職員に実施、認知症介護実践研修（実践リーダー研修）、ユニットリーダー研修など、特に施設内における他のスタッフに対する指導者としての資質向上に重点をおき、長期的な内部研修機能向上へのステップといたしました。

設備面については、外壁の洗浄及び改修、屋外テラスの改修、厨房設備、受水設備等、不具合によるご利用者さまや業務への支障の防止の観点から早期段階での修繕を実施いたしました。

## 1. 施設事業運営

### (1) 運営方針

#### 特別養護老人ホーム

身体または精神上著しい障害があり、常時介護が必要かつ居宅での介護が困難な要介護度 3 以上の方の入所サービスを提供した。

短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護(空床利用型)冠婚葬祭等や介護疲労の回復等の社会的理由により、在宅介護が一時的に困難となる対象者に地域の居宅介護支援事業者との連携によりサービスを提供した。

( 2 ) 利用者数

特別養護老人ホーム

定員 49 名 利用者延日数 16,072 日

ショートステイ

空床利用型 利用者延日数 603 日

( 3 ) 利用者へのサービス

健康管理

(a) 嘱託医、看護師によるご利用者さまの感染症予防の対策を含めた健康管理を行った。

(b) 歯科医師による歯科診療、口腔ケアを行った。

栄養管理

(a) 栄養士によるご利用者さま個々の状態、体調や疾病に合わせた献立を作成するとともに、嗜好調査も実施し、調理、味付け、盛りつけ等にも留意した食事を提供した。

(b) 生活の充実を図る意味から、選択メニューや季節を感じる献立等にも留意した食事を提供した。

安全管理

消火器・消火栓の取り扱い方を含め、地震、洪水を含めた防災避難訓練を実施した。緊急連絡網等の整備を行い、夜間を想定した避難訓練なども実施した。避難にあつては非常階段の使用を含めた訓練となるよう配慮した。また職員による救急時の早期発見による迅速な対応が出来る様、内部研修において職員の質の向上を図る。

年間行事等

(a) お花見等、季節に応じた行事を実施した。

(b) 利用者の状態を考慮しながら買い物・ドライブ等の施設外での活動も楽しめるよう配慮した。

(c) 地域ボランティアによる踊り、演芸等の慰問をして頂いた。

(d) 敬老会は、各ユニットにおいてお祝いを行い、式典にて長寿の衣装をまとい記念撮影を実施、写真はご家庭へ送付した。

(e) 上記の他にも、各ユニットごとに季節行事、レクリエーションを実施し、利用者間の親睦を深め、活気のある暮らしを楽しんでいただいた。

(f) 専門の理美容師による理美容を行った。

#### (4) 職員の待遇

職員数（平成30年3月31日現在）

施設長	1	
生活相談員	1	（1名介護支援専門員と兼務）
介護支援専門員	2	（1名介護職員、生活相談員と兼務）
栄養士	1	
事務員	1	
医師（嘱託）	1	
看護職員	3	（2名あかまつ荘と兼務）
機能訓練指導員	2	（看護職員と兼務）
介護職員	21	（1名介護支援専門員と兼務）
専従宿直	2	
合計	31	

健康管理

年1回の健康診断（労働時間の一部または全部に夜間の時間帯を含む勤務者は、年2回）、生活習慣病予防検診を実施した。

#### 研修

岡山県、県老人福祉施設協議会、介護福祉士実習指導者講習、県看護協会、社会福祉協議会等が主催する各種研修に積極的に参加し、また感染症や事故防止・身体拘束・虐待・介護技術等に伴う施設内研修も随時実施した。

#### 資格取得

介護職における胃瘻・喀痰吸引研修、介護支援専門員、ユニットリーダー、認知症介護実践研修（実践リーダー研修）等、資格取得の奨励/援助をした。

#### 福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間社会福祉従事者共済制度、岡山県民間社会福祉施設従事者育成制度、福利厚生センター、団体長期障害所得保険（GLTD）に継続して加入した。

## 2. 施設事業管理

( 1 ) 施設整備

- ( a ) エレベーターバッテリーの交換
- ( b ) 受水槽配管の修繕
- ( c ) 厨房、ユニット内エアコンの修繕
- ( d ) 施設外壁タイル、屋外テラス改修
- ( e ) 外壁タイル洗浄
- ( f ) 厨房・医務室の漏電の修繕

( 2 ) 備品、設備整備

- ( a ) スチームコンベクション等厨房備品の修理
- ( b ) 温冷配膳車 修繕
- ( c ) 事務所コピー機入替
- ( d ) 事務所ネットワークハードディスク入替

3 . 地域における公益的な取り組みについて

施設所在地周辺の高齢世帯、高齢者独居世帯等に対し、民生委員・支援ボランティア等と連携して介護相談や関係機関等との調整にあたった。

# 平成 29 度事業報告書

イーエスサウスヒルズ

## 概 要

年度を通じて 19 名のご利用者が退所され、同じく 19 名のご利用者の入所を受け入れるという、入退所のあわただしい年度であった。

また、5 月に季節外れの感染性胃腸炎（ノロウイルス）の集団感染があり、利用者 16 名、職員 7 名が感染し、法人内他施設の協力を得て対応を行った。8 月には、これも季節外れのインフルエンザ A 型により、利用者 4 名、職員 2 名が感染を受けた。

平成 28 年改正社会福祉法における社会福祉法人の「地域における公益的取組」に対しては、久米南町内の社会福祉法人合同会議が開催され、地域内の社会福祉法人が協力し、早急に地域のニーズ状況を把握した上で、地域における公益的活動を実施して行くとの方向性が決定した。

## 1. 施設事業運営

### (1) 運営状況

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

要介護認定において、原則、要介護 3 以上の認定を受けたご高齢者の施設介護サービスを介護計画に基づいて行なった。

短期入所介護・介護予防短期入所介護（ショートステイ）

居宅介護支援事業所等の介護支援専門員が立案し、ご本人、ご家族等の同意を得た介護支援計画に基づき、要介護認定を受けたご高齢者をお預かりし、適切なケアや生活リハビリを行った。

居宅介護支援事業所

要介護状態にあるご高齢者が、居宅で日常生活を営むために必要な介護サービス・保健・医療・福祉サービス等を適切に利用できるよう、ご本人やご家族の依頼を受け、種々の相談に応じ、介護サービス計画の作成、サービス提供事業者・施設等との連絡調整を行った。介護予防給付対象者に関しては地域包括支援センターの委託を受けてサービスを実施した。

### (2) 施設利用者の状況（平成 30 年 3 月 31 日現在）

特別養護老人ホーム

(a) 入所退所の状況 定員 55 名

年度当初入所者 . . . . . 55 名

新規入所者 . . . . . 19 名（内再入所 0 名）

退所者 . . . . . 19 名（内死亡退所 6 名）

年度未入所者・・・・・・・・ 55名

(b) 年齢別、市町村別入所者の状況

区 分	65～74	75～84	85～94	95～	合 計
久米南町	3	4	18	10	35
津山市	0	3	7	5	15
美咲町	0	2	2	0	4
その他	0	0	1	0	1
合 計	3	4	28	15	55

㊦ 短期入所（ショートステイ）

稼働延床数	利用延床数	利用率					
1,825	1,551	85%					
4月	162	5月	55	6月	116	7月	122
8月	95	9月	127	10月	160	11月	136
12月	145	1月	143	2月	137	3月	153

㊧ 居宅介護支援事業所

(単位 人)

月	プラン作成	介護予防 プラン作成	月	プラン作成	介護予防 プラン作成
4	33	10	10	35	10
5	34	10	11	35	10
6	35	10	12	35	10
7	35	10	1	35	10
8	35	10	2	38	9
9	36	10	3	37	9
合 計				423	118

(3) 利用者の処遇・支援

㊨ 健康管理

- (a) 医師・看護師を配置し、ご利用者の健康管理に努めた。
- (b) 入所時検診の実施と年1回の胸部レントゲン検診等、健康診断及びインフルエンザ予防接種を実施した。
- (c) 施設内の衛生管理を徹底し、感染症の侵入、蔓延防止を図った。

栄養管理

- (a) 給食業務は、「(株)フレッシュ」に業務を委託し、施設栄養士の管理のもとに、利用者一人一人の体調合わせた栄養基準量に基づいた献立を作成し、調理、味付け、盛り付けを工夫したバ

ランスの良い食事の提供を行った。

(b) お花見、新年会等の行事には季節感あふれる食事を提供した。

安全管理

毎年2回は防災避難訓練を行い、また年1回の地域消防署、消防団、近隣施設との合同訓練を実施した。

年間行事と余暇の充実

(a) 岡山市、津山市、久米南町内への観光、買い物等を行い、その雰囲気を楽しみ、また、より広域な地域での人とのふれあいの場や機会を提供した。

(b) 施設内行事

ア) ボランティアの協力も得て、季節に応じて七夕会、納涼会、敬老会、運動会、紅葉狩り、クリスマス会、新年会、とんどや毎月のお楽しみ会・誕生会を開催した。

イ) 毎月喫茶の日を設け、また外部理容師による理容を実施した。

ウ) クラブ活動

習字・運動・音楽・フラワーアレンジメント・フラ等のクラブ活動を実施し、利用者間の交流を積極的に行った。

(4) 地域交流に関する行事

救護施設ニュー三楽園との共催による恒例の恵明祭りを実施、地域の方々、ご家族との交流を図った。

厨神社子供みこし、久米南町老人クラブなど積極的に受け入れ、利用者との地域交流に努めた。

(5) 実習および研修生の受け入れ

職場体験等、実習・研修生の受け入れを行った。

(6) 地域ボランティアの協力

久米南町ふれあいの会、愛育委員等のボランティアの協力・支援を受けた。

(7) 職員の待遇等

職員数（職種別）

区分	特養	居宅介護支援	計
管理者	1	1(1)	2
医師（嘱託医）	1		1
介護支援専門員	1	1(1)	2
生活相談員	1		1
介護職員	23		23

看護職員	3		3
機能訓練指導員	(2)		
栄養士	1		1
事務員	1		1
宿直員	2		2
計	34	2	36

※ パート職員を含み（ ）は別掲兼務で医師は非常勤  
計欄は、職員の実数。（介護職員1名育休を含む）

#### 健康管理

定期健康診断およびインフルエンザ予防接種の実施。

#### 労務管理

変則勤務者は年2回、その他の職員は年1回の健康診断の他、腰痛予防健診を行った。

#### 職員会議・研修・講習等

- (a) 運営・処遇・医務・給食に係る各会議を毎月1回定例的に開催。
- (c) 岡山県及び社会福祉協議会が実施した、高齢者介護・認知症介護・身体拘束・介護支援専門員・接遇・感染症予防・認定調査員研修など介護・看護に関する社会福祉事業従事者への各種研修や講習会に参加させ、知識・技術の修得に努めた。
- (d) 事故防止、感染症対策、身体拘束防止に資する研修、会議を定期に開催し、サービスと安全の改善に努めた。
- (e) 看護と介護の連携に資するため、喀痰吸引等実地研修施設として介護職員の実地研修を行った。

#### 福利厚生

- (a) 社会福祉施設職員等退職手当共済制度・岡山県民間社会福祉従事者共済制度・岡山県民間社会福祉従事者育成制度・福利厚生センターに継続して加入した。
- (b) 介護福祉士、介護支援専門員受験助成等により資格取得を奨励した。

## 2. 施設事業管理

(1) 施設整備 なし。

(2) 備品・設備整備

大型衣類乾燥機、大型洗濯機、食器洗浄機、スチームコンベクションオーブン、エアコン及びファンコイルの修理を行った。

消防法改正により、火災通報装置と自火報設備連動工事を行った。

給排水管の修繕工事を必要に応じて行った。



電動ベッド 1 台の入れ替えを行った。

# 平成 29 年度事業報告書

ミ・カサ

## 概要

昨年度策定した事業継続計画（BCP）に基づき、深刻な災害発生時にあっても安定したサービスの継続が図れるよう、災害時対応訓練を行い計画の改善を図った。

施設運営に関し、特別養護老人ホームにあっては、待機者対応の見直し、看護部門の介護への積極的対応およびインシデントへの対応強化による事故防止に重点をおき、稼働率の向上を目指した。

また、介護時の拘縮骨折予防や褥瘡予防技術訓練などの施設内研修を実施し、介護技術の向上を図った。外部研修については、参加職員によるフィードバックを実施することにより、介護職全員へその内容の周知を行い、研修における知識の習得を図った。

加えて、ご利用者にとって健康管理上の重要な要素となる栄養管理については、栄養ケアマネジメントを強化し、看護および介護部門と連携し、個別の嚥下状態や栄養状態に応じた対応を実施した。

上記のことが有機的に連携することにより、ご利用者へのサービス向上を図ることが出来た。

併設のデイサービスにあっては、機能訓練の強化のため、理学療法士および看護師を常勤で専任配置し、ご利用者の ADL の向上に努めた。

また、季節ごとの行事を行い、ご利用者に楽しんで頂いた。

地域においてもサービス内容で選ばれる施設として着実に浸透してきたが、昨年度と比較し稼働率の低下およびご利用者の介護度の改善による中重度加算が外れたことにより営業収入が減少した。

## 1. 施設事業運営

### (1) 運営方針

#### 特別養護老人ホーム

身体または精神上著しい障害があり、常時介護が必要で、かつ居宅での介護が困難な高齢者に対し入所サービスを提供する。

介護保険法に定める要介護区分の主として要介護 3～5 と認定された方で常時介護を必要とし、居宅において介護を受けることが困難な方を対象とする。また、必要に応じ同法に定める特例入所受入についても留意する。

#### ショートステイ（特養部分の空床利用）

冠婚葬祭や介護疲労の回復等の社会的理由により、在宅介護が

一時的に困難となる対象者に短期入所サービスを提供する。

#### 通所介護・介護予防通所介護

介護予防及び要介護認定を受けている在宅のご高齢者に通所で各種の介護サービスを提供し、ご利用者の日常生活の援助、社会的孤独感の解消、心身機能の維持向上を図るとともに、ご家族の身体的、精神的負担の軽減を図る。機能訓練の充実、適切な看護の提供等により安定的な稼働を確保する。

### (2)利用者数

#### 特別養護老人ホーム(含 ショートステイ、除 入院期間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要支援1	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0
要介護1	0	0	0	5	2	4
要介護2	0	0	0	2	0	0
要介護3	291	238	210	139	114	150
要介護4	721	809	753	790	795	727
要介護5	777	799	762	822	870	828
総合計	1,789	1,846	1,725	1,758	1,781	1,709
暦日数	30	31	30	31	31	30
稼働率	99%	99%	95%	94%	95%	94%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	3	0	0	0	0	0	3
要介護1	0	2	11	0	0	0	24
要介護2	0	15	13	0	0	0	30
要介護3	176	180	155	155	150	124	2,082
要介護4	766	737	769	805	653	775	9,100
要介護5	864	841	881	898	822	925	10,089
総合計	1,809	1,775	1,829	1,858	1,625	1,824	21,328
暦日数	31	30	31	31	28	31	365
稼働率	97%	98%	98%	99%	96%	98%	97%

#### 通所介護・介護予防通所介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要支援1	14	17	14	8	9	9
要支援2	38	37	43	40	48	48
要介護1	147	157	147	147	161	161
要介護2	46	54	86	75	75	63
要介護3	63	56	52	44	21	18
要介護4	47	51	44	45	43	42
要介護5	18	12	14	13	15	13
総合計	373	384	400	372	372	354
営業日数	25	27	26	26	27	26
稼働率	74%	71%	76%	71%	68%	68%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	9	8	8	8	8	9	121
要支援2	44	44	46	41	43	51	523
要介護1	149	150	158	129	120	127	1,753
要介護2	70	55	59	69	90	83	825
要介護3	26	21	10	10	12	18	351
要介護4	39	25	28	25	15	19	423
要介護5	9	0	0	12	13	13	132
総合計	346	303	309	294	301	320	4,128
営業日数	26	26	26	24	24	27	310
稼働率	66%	58%	59%	61%	62%	59%	66%

### (3)利用者サービス

#### 健康管理

- ( ) 嘱託医、看護職員による健康管理を実施した。
- ( ) 歯科医師による訪問歯科診療、口腔ケアを実施した。

#### 栄養管理

- ( ) 管理栄養士によるご利用者個々の状態・体調に合わせた献立作成に加え、調理、味付け、盛り付けにも留意した食事提供した。

また、栄養ケアマネジメント加算の算定要件に即し、個別の状態に応じた栄養管理を実施した。誤嚥予防のための食形態の変更については、医務及び介護と協議し迅速に行った。

- ( ) 選択メニューの実施や季節感のある献立に留意した。
- ( ) 嗜好調査も実施し、満足度が向上に努めた。
- ( ) 異物等の混入を防止し、適切な加熱で安全な食事を提供した。

#### 機能訓練

専任の機能訓練指導員（OT）や兼務の看護師により、ご利用者個々の状態に適した機能回復訓練を実施した。

日常生活上の機能訓練やレクについては介護職員が実施した。

#### 安全管理

- ( ) 避難訓練を行い、緊急時の対応についても万全を期した。
- ( ) 防災マニュアルに基づき災害に対する対応の強化を図った。
- ( ) 策定したBCPに基づき、非常災害時の対応についての訓練を行い対策の改善を図った。

#### 行事、地域における公益的な取り組み

- ( ) 誕生会、クリスマス会、節分等、ユニット行事を実施した。
- ( ) 敬老会において、節目のご利用者に賞状と記念品を贈与するとともにご利用者全員で地元ボランティアによる演劇を楽しんだ。
- ( ) 外部理容師による施設内散髪を定期的に行った。
- ( ) 出張販売、お花クラブ、詩吟教室などを定期的実施し、生活の質の向上を図った。

また、日常生活や行事の写真を撮り、ご利用者個人のアルバムを作成した。

- ( ) 地域における公益的な取り組みとしては、町内における廃品回収への協力や市の資源ゴミ回収における場所の提供および分別作業を行った。また、町内における季節行事である秋祭りやとんど等への場所の提供や人的な協力を行った。

( )津山市の民生委員等の見学や研修の受入れを行った。

#### (4)職員の処遇

##### 研修の充実

介護技術、感染対策、虐待防止及びリスクマネジメント等の外部研修のほか、外部研修参加スタッフによる内部研修会を計画的に実施した。

##### 健康管理

( )年 1 回の健康診断及び生活習慣病予防健診を行った。

(夜間勤務者には年 2 回実施)

( )看護師及び介護職員は、年 2 回の腰痛問診票を実施した。

##### 労務管理

管理者による個人面談を継続的に行い、職員の要望や不満等の聞き取りを行い、働きやすい職場環境の構築を図った。

##### 福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度・岡山県民間社会福祉従事者共済制度・岡山県民間社会福祉施設従事者育成制度・福利厚生センター・団体長期障害所得保険（GLTD）に加入。

## 2 . 施設事業管理

### (1)施設整備

津山市中心地であり、人や車の往来もあるため、施設内外の環境美化には特に力を入れ、利用者にも気持ちよく過ごせいただく環境を整備、維持につとめた。また、施設内の整理整頓を実施し、職員が働きやすい職場環境の構築を図った。

加えて問題発生が予測される箇所及び水周り等の点検を定期的に行い、設備の維持に努めた。

### (2)備品・設備整備

( )機能訓練、レクリエーション等に必要な備品・消耗品等を運営状況に即し整備・管理した。

( )スプリンクラー装置・発電機等確実な定期点検を実施し、緊急時の対応に備えた。

( )車両の定期点検ならびにタイヤ点検など実施し、常に安全に運行出来るように備えた。

( )施設内環境の整備、修繕、点検を定期的に行い安全確保に努めた。

# 平成 29 年度事業報告書

指定共同生活援助事業所 サンコート

## 概要

グループホーム サンコートは、利用者が自立を目指し、地域において共同して日常生活又は社会生活を営むことができるよう、身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において相談その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うものである。

また、制度改正により、H26 年 4 月より共同生活介護（ケアホーム）の共同生活援助（グループホーム）への一元化がなされ、外部サービス利用型指定共同生活援助（旧 共同生活援助）に移行された。制度変更に伴った適切な運営が図れるよう知識や情報の習得をするなど、関連団体主催への職員研修に積極的に参加に努め、障害福祉サービスの充実を図った。

## 1. 施設事業運営

### (1) 施設の概要

津山市一方 219-11 所在のアパートと賃貸借契約をし、赫赫荘として、津山市津山口 309-2 所在のアパートと賃貸借契約をし、イーエスヒルサイドとして共同生活住居の場を設け、日常生活上の相談等のサービスを提供した。

### (2) 利用者数

赫赫荘	20 名（定員 20 名）
イーエスヒルサイド	9 名（定員 9 名）
合計年間延利用者数	10,347 名（稼働率 97.7%）

### (3) 利用者へのサービス

#### 生活援助

- (a) 利用者との個別面接・相談の場を積極的に設け、親愛の情を持って日常生活の指導や支援を行い、自立した生活を送れると共に、利用者が地域に根ざした生活を送れるよう努めた。
- (b) 利用者のサービスは、個人の年齢、性格、生活歴及び心身の健康状態等に常に配慮しながら個別支援方針を作成し、適切な支援を行った。
- (c) 入院された利用者への面会も定期的に行い、相談や話をすることで入院等に対する不安の解消に努め、入院中の個別支援計画を作成し状況に応じた支援を行った。
- (d) 希望者を募り月に一度程度の、花見や紅葉狩りなど季節に応じた外出、小旅行、買い物、調理実習、室内ゲーム等の自主活動

を行い、利用者の生活の質的な向上を図った。

#### 就労の援助

作業能力等を見極め、近隣事業所への作業紹介や就労支援を行い、入所者の安定した生活自立による社会参加の促進を図った。

#### 健康管理等

常に利用者の健康状態に留意しながら、食事や服薬等の支援を行い、また、年一度の定期検診と月一度のバイタルチェックによる健康管理を行った。

#### 関係機関との連携

通所授産施設友楽荘、救護施設三楽園、積善病院及び救護施設ニュー三楽園と常に密接な連携をとりながら、事業の円滑な遂行を図る為に、月一回利用者サービス連絡会議を設け、情報の共有化を図った。

#### 安全・衛生管理

年2回の夜間避難訓練、年1回の総合訓練、年2回の火災避難訓練を実施した。また、各居室の衛生保持のため、年に2回程度の大掃除を行うよう支援した。

#### (4) 運営管理

支援費の他、利用者は家賃相当額(共益費を含む)37,500円/月(赫赫荘)40,500円/月(イーエスヒルサイド)を負担する。

#### (5) 職員の待遇

##### 職員数(職種別)

管理者兼サービス管理責任者 1名

世話人 5名(常勤)

世話人(契約) 3名(非常勤)

\*世話人は常勤換算し6名とした

##### 健康管理

定期健康診断または人間ドックを年1回実施した。

##### 労務管理

週所定労働時間：40時間以内(1ヶ月の平均)

休日：1ヶ月9日(うるう年以外の2月は8日)

ただし、契約職員・パート職員については、雇用契約書によるもの  
研修・講習

制度変更等に関する関連団体主催の研修や、その他行政庁等主催の研修への積極的な参加に努め、また内部研修の実施により、職員全体の質の向上を図った。大型運転免許取得資格講習で資格を取得し

バス行事など利用者レクリエーションの充実を図った。

福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間社会福祉従事者共済制度、岡山県民間社会福祉従事者育成制度、および福利厚生センターに継続加入した。

## 2. 施設事業管理

環境整備

住みやすい環境作りの一環として、施設周辺の整備と衛生管理を実施した。

## 3. 施設事業運営

施設設備維持関係

エレベータ・電気設備・火災通報装置の機能維持のため、計画的に点検、整備を行い、修繕する必要がある場合は見積もりを徴取するなど適正な事業所運営を図った。

利用者の高齢化や法改正に則り、適切に外部サービスが利用できる体制づくりを将来を見据えて整えた。

## 4. 地域における公益的な取り組み

施設の近隣の農業用水の清掃や駐車場・公園などの草取りを通じ地域の環境美化や生活環境の向上を図る。また民生委員との交流をもとに適時高齢者情報の交換を行い高齢者の見守りなどを実施した。



# 平成 29 年度事業計報告

就労継続支援 A 型事業所 宙

## 概要

利用者が社会復帰を目指し、地域において日常生活や、社会生活を営むことができるよう、環境に応じた就労訓練を提供し、相談その他の日常生活における援助を適切に行った。

利用者への処遇充実のため、行政庁その他関係機関とも情報交換を行い、就労訓練・日常生活の支援等と実施した。また、関連団体主催の研修にも積極的に参加し、就労継続支援 A 型事業所の質の向上、改善を図った。

## 1. 施設事業運営

### (1) 施設の概要

平成 27 年 5 月に久米郡久米南町上弓削 1563-6 に就労継続支援 A 型事業所を開所し、就労に関する支や日常生活の相談等のサービスを実施した。

### (2) 利用者数

定員 20 名      利用者数 12 名

### (3) 利用者へのサービス

#### 就労援助

入所者の安定した生活自立による社会参加の促進を目指し、近隣事業所への作業紹介や下記の就労支援を行った。

- (a) 製麺作業    うどんを製麺し、主に福祉施設や病院を中心にうどんの給食提供を行った。
- (b) 福祉施設の清掃・米の精米作業を行った。

#### 生活援助

- (a) 利用者との個別面接・相談の場を積極的に設け、日常生活の指導や支援を行い、自立した生活を送れると共に、利用者が地域に根ざした生活を送れるように支援を行った。
- (b) 利用者のサービスは、個人の年齢、性格、健康状態、希望に沿って個別支援計画を作成し、適切な支援を行った。

#### 健康管理等

利用者の健康を把握する為、毎朝検温と毎月 1 回の検便を実施。また、体調の悪化が無いかわり体調管理表を使用し管理を行った。

#### 関係機関との連携等

法人内の救護施設、授産施設、積善病院、生活支援センター、相談支援所と常に密室な連携をとり、事業所の円滑な遂行を図った。

#### 安全管理

6月、12月の年2回の火災の避難訓練、9月に水害避難訓練、11月に消火訓練、2月に地震災害の避難訓練を実施。

#### (4) 運営管理

支援費の他、利用者は食事代（材料費）78円/1食を負担して頂いた。

休日は、土曜日、日曜日、祝日、正月とした。

#### (5) 職員の処遇

##### 職員数（職種別）

管理者 1名（職業指導員兼務）

サービス管理者 1名

職業指導員 2名

生活支援員 1名

\* 職業指導員と生活支援員は常勤換算し合計3名となるよう配置する。

##### 健康管理

定期健康診断または人間ドックを年1回（3月）実施した。

##### 労務管理

週所定労働時間：40時間以内（1ヶ月の平均）

休日：1ヶ月9日（うるう年以外の2月は8日）

##### 研修・講習

職員の質資質向上と資格取得を図る為、内容を十分検討し各種研修会、講習会に参加した。

##### 福利厚生

社会福祉施設職員等退職手当共済制度、岡山県民間社会福祉従事者共済制度、岡山県民間社会福祉従事者育成制度、および福利厚生センターに加入を行った。

## 2. 施設事業管理

### (1) 施設整備

就労支援A型事業所として選ばれる環境作りの一環として、施設周辺の整備（草刈り等）を実施した。

### (2) 施設設備維持計画

製麺機器についてはその機能維持のため、週1回の定期点検、整備を行った。

3. 地域における公益的な取り組みについて

(1) 久米南町所有の土地整備

施設の北側にある久米南町所有の放置されている土地の草刈りを、年 4 回草刈りを無償で実施した。

# 平成 29 年度事業報告

生活保護授産施設 友楽荘

## 概要

生活保護授産施設友楽荘は、生活保護受給者を対象に作業指導を通じた就労の場を提供し、利用者自らが工賃獲得の経験を積むことにより、社会的自立を達成すべく支援を行った。

利用者の高齢化が進む中、計画的な技能継承と世代交代の促進に努めた。また、主力の洗濯業務に加え、法人内各施設からの受託作業等を確保し、利用者の適性に応じた作業メニューの提供に努め、支援効果の向上を図った。併せて、顧客サービスの品質向上に向け利用者と共に努力を継続した。

## 1. 施設事業運営

### (1)利用者数 (30人定員)

平成 30 年 2 月 1 日現在	32 人
H.29 2/1～H.30 1/31 の 1 年間で見た 延べ利用者数	11,774 人
1 日平均では	32.3 人
平成 29 年度目標	32.0 人

### (2)利用者へのサービス・支援

**健康管理** 健康状態を的確に把握し、担当医との連携を通じて病気の予防に努めると共に、年 2 回の健診を実施した。精神障害者については定期受診管理を行い、確実な服薬ができるよう支援した。

**栄養管理** 栄養バランスを保つため給食サービスを提供し、利用を促進すべく昼食代の一部を補助した。

**安全管理** 火災避難訓練を 3 回行った。地震・風水害等を想定した訓練を 1 回行った。労災の防止に向け、安全基準の遵守、基本作業手順の徹底に努めた。

万一の事故に備え損害賠償保険に継続加入した。

**作業支援** 作業を通じ、自立生活に必要な能力の開発に努めた。作業内容は、主に洗濯、縫製、受託作業とした。

**生活支援** 利用者の人権を尊重し、障害の種類や程度に加え、生活歴や性格なども考慮した処遇に努めた。

余暇の過ごし方や健康管理について助言し、自立

- に向けた生活習慣の定着に努めた。
- 環境整備 施設内を清潔に保ち整理・整頓の励行に努めた。  
この習慣が私生活にも定着するように支援した。
- 年間行事 お花見、食事会、日帰りバス旅行、忘年会等により心身のリフレッシュを図り、社会性や協調性を身に付ける一助とした。
- (3)世代交代 関係先との連携強化により世代交代を促進し、核となる作業の後継者づくりを図った。
- (4)地域公益活動 法人内高齢者施設退所者に対し残置物処分代行サービスを実施した。
- (5)職員の処遇
- 職員数 施設長 1 名、事務員 1 名、指導員 3.5 名  
雇用人 1 名 合計 6.5 名
- 健康管理 健康診断を年 1 回、生活習慣病該当年齢の職員には人間ドックを実施した。
- 労務管理 職員の休日は、1 ヶ月を通じて 9 日、うるう年以外の 2 月は 8 日とした。
- 研 修 専門性を高め、実践力を高めるため、外部研修会や講習会等へ参加した。参加した職員が中心となり職場研修を行い、知識の共有化を図った。
- 福利厚生 社会福祉施設職員等退職手当共済制度・岡山県民間社会福祉従事者共済制度・岡山県民間社会福祉従事者育成制度・福利厚生センターに継続加入した。

## 2 . 施設事業管理

### 設備・機械修繕等

- ) 洗濯機 ( TOSEI30kg ) ギアモーター損傷 ( 排水 )
- ) 浄化槽曝気ブローア ( エアポンプ取替 )
- ) 蒸気ボイラー ( 清缶剤ポンプ用タンク破損取替 )
- ) 大型乾燥機配管 ( 蒸気ドレン管破れ )
- ) プレス機配管亀裂
- ) 洗濯機 ( WN300D ) 排水弁
- ) ピット槽フロートスイッチ交換
- ) 蒸気ボイラー配管 ( 穴あき )

平成 29 年度 友楽荘 研修・講習 実施報告書

外部研修・講習

職種	時期	場所	研修名	内容
荘長	4 月	倉敷	保護施設職員交流セミナー	グループ討議
	9 月	岡山	地域公益的取組	事業説明会
	9 月	岡山	県精神障害者社事業協	公開講演会
	11 月	岡山	地域公益活動推進	推進センター設立
副荘長	6 月	津山	安全運転管理者講習	交通事故の現状と対策
	7 月	津山	水害・土砂災害	施設管理者向け
	7 月	岡山	会計職員実務研修	会計基準と会計処理
	8 月	岡山	福祉職員生涯研修会	管理コース
指導員	4 月	倉敷	保護施設交流セミナー	施設職員グループ討議
	8 月	岡山	福祉職員生涯研修会	指導コース
	10 月	岡山	リスクマネジメント	リスクマネジメント
	10 月	津山	感染症対策研修会	インフルエンザ等
	12 月	津山	感染症対策研修会	ノロウィルス等

施設内研修

担当	時期	研修テーマ	内容
指導員	4 月	保護施設協議交流セミナー	内容報告、質疑
副荘長	6 月	安全運転管理者講習	内容報告、質疑
副荘長	7 月	水害・土砂災害への備えに	内容報告、質疑
荘長	9 月	精神障害者社福事協 講演会	内容報告、質疑
荘長	9 月	地域公益的取組について	内容報告

莊長	11月	地域公益的取組推進研究会	内容報告
指導員	12月	感染症対策、	マニュアル更新・整備

以上

# 平成 29 年度事業報告

養護老人ホームときわ園

## 概要

平成 28 年度より津山市から指定管理制度による管理・運営を行っており、人権を尊重し、高い水準での「快適」「健康と安心」「文化的生活」を目標に支援・介護を提供しています。

従前の養護老人ホーム、老人短期入所事業に加え、特定施設入居者生活介護事業の指定を受け、要介護者等も含めた利用希望者を積極的に受入れております。加えて、民間事業者として培った知見・技量を活かし、施設利用目的に併せた指導・訓練等も踏まえたサービスの提供により利用者のニーズに沿った支援・介護を実施いたしました。

## 1. 施設事業運営

### (1) 入居者数(定員 80 名)

入所者数月平均 76.8 人 入院者数月平均 5.2 人

- ①一般居室 (月平均利用者数 41.4 人)
- ②特定居室 (月平均利用者数 35.4 人)

### (2) 利用者へのサービス

#### ①事業運営

津山市高齢介護課及び法人内各施設と連携し利用希望者を積極的に確保していくとともに、利用者の身体状況等に応じた新たな生活の場の確保にも努めていく。

#### ②健康管理

- (a) 年 2 回の健康診断を実施し、健康状況の把握に努めた。
- (b) 嘱託医師による健康相談を月 1 回実施し、健康管理及び療養上の指導を行った。
- (c) 提携医療機関及び利用者雇い付け主治医との連携を密にし、健康維持と回復に努めた。
- (d) 看護師による定期的な体重測定、バイタルチェックを実施し、体調管理に努めた。
- (e) 介護予防体操及び健康体操を継続的に実施した。
- (f) 日常生活に必要な身体機能を維持・改善するため、リハビリテーションを実施した。



( g ) 感染予防対策と事故防止対策の徹底を図った。

③栄養管理

( a ) 栄養士の指導の下、利用者の身体状態や体調に合わせ、  
バランスの取れた食事を提供した。

( b ) 行事食等で嗜好調査を反映した食事を提供した。

( c ) 異物等の混入を防止し適切な過熱で食事を提供した。

④安全管理

( a ) 地震・風水害等を想定した法人内一斉防災訓練を年 1 回、火災  
等を想定した避難訓練を年 2 回実施した。

( b ) 津山圏域消防組合に講師を依頼し救急救命講習を行った。

( c ) 災害時福祉避難場所指定を受けていることも踏まえ、地元町内  
会、消防団等との連携を図った。

⑤衛生管理

( a ) 一般利用者の入浴は月～土曜日の毎日、特定利用者の特浴及び  
介助浴は、週 2 回以上行った。

( b ) 大浴場の清掃を毎日行う。レジオネラ菌に係わる水質検査を年  
1 回以上行った。

⑥行事

四季折々の風物に因んだ余暇活動を実施し、単調になりがちな集  
団生活にアクセントをつけ色合いを持た。

( a ) 年間

お花見と昼食 ( 4 月 ) 買い物ドライブ ( 5 月 ) ドライブ ( 6  
月 ) 七夕会・地域交流 ( 7 月 ) 盆供養・ときわ祭り ( 8 月 )  
敬老祝賀会 ( 9 月 ) 観劇と温泉入浴・地域交流 ( 10 月 ) 紅  
葉狩りと買い物 ( 11 月 ) クリスマス会 ( 12 月 ) とんど ( 1  
月 ) 節分祭 ( 2 月 ) 雛祭り ( 3 月 )

( b ) 月間

月例会、誕生会、ショッピング、クラブ活動、ラジオ体操

⑦介護

特定利用者へ、特定施設サービス計画に基づき介護サービスを提  
供し、併せて利用者の身体状況に応じた機能回復訓練を実施した。

⑧ご意見箱の設置

利用者やご家族様からのご意見をお聞きし、ご理解と円滑な施設運  
営に反映させる。

( 3 ) 職員への待遇

①職員数 ( 職種別 )

( a ) 共通職員

施設長 1 名、事務 1 名、栄養士 1 名、非常勤医師 2 名

( b ) 一般職員

生活相談員 1 名、支援員 3 名、看護職員 1 名、宿直員 ( 交代勤務 ) 2 名

( c ) 特定職員

生活相談員 1 名 ( ケアマネ兼務 )、介護職員 10 名 ( 内 1 名ケアマネ兼務 )、看護職員 2 名

②健康管理

定期健康診断を介護職員は年 2 回、その他職員は年 1 回実施した。  
また、看護介護職員の腰痛健康診断を実施した。

③労務管理

週所定労働時間：40 時間以内 ( 1 ヶ月の平均 )

休日：1 ヶ月 9 日 ( 2 月は 8 日 )

④研修・講習

( a ) 各種外部の研修会・講習会へ参加した。また、研修内容を共有するため施設内研修会を開催した。

( b ) 社会福祉・介護関係、その他の資格取得に努めた。

( c ) 認知症や虐待防止、障害者差別防止等に係わる研修に積極的に参加し、専門知識の習得・共有に努めた。

⑤福利厚生

社会福祉施設職員等退職共済制度、岡山県民間社会福祉従事者共済制度、岡山県民間社会福祉従事者育成制度、福利厚生センターおよび GLTD ( 団体長期障害所得保証制度 ) に継続加入した。

## 2 . 施設事業管理

### ( 1 ) 施設整備

①施設内外の環境美化に努めた。

②施設の定期点検、日常点検を実施し、不良箇所の早期発見と計画的修繕に努めた。

### ( 2 ) 備品・設備整備・修繕

①防犯カメラの設置 「地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金」

②大浴場・特殊浴槽への手摺設置

③厨房食器洗浄機ポンプ交換

④居室出入り口、引き戸の建具調整工事

⑤送迎用車両の修理

### 3 . 地域における公益的な取組

地域との交流を目的とした祭りに障害者や高齢者、乳幼児の家族等を招待し、地域福祉の向上に努めた。